

# 能代市教育委員会 事務点検・評価報告書

(平成27年度対象)

平成28年8月

能代市教育委員会

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

# 目 次

I	点検・評価の趣旨等	1
1	点検・評価の趣旨	
2	点検・評価の対象	
3	学識経験者の知見の活用	
4	報告書の作成	
II	点検・評価の結果	2
	基本目標1 豊かな人間性を育む学校教育の推進	
①	主体的で創意ある教育活動の推進	2
②	心豊かでたくましい子どもを育てる指導	7
③	基礎学力の向上を図る学習指導	12
④	幅広い識見と実践的指導力を培う教職員の研修	16
⑤	安全・安心な学校教育環境の整備	19
	基本目標2 より心豊かで生き生きとした暮らしにつながる学びの場づくりの推進	
①	学習の成果を地域に生かす取組の推進	23
②	市民ニーズや地域課題に対応した多様な学習機会の提供と充実	25
③	学習を通じた生きがいづくり、仲間づくりの支援	27
④	社会教育施設等の適切な運営による、より良い学習環境の充実	29
	基本目標3 学校・家庭・地域・行政等が一体となった、次代を生きる子どもたちを育むまちづくりの推進	
①	学校・家庭・地域の連携協力の推進	34
②	保護者への学習機会の提供等による家庭教育の支援	43
③	読書活動の推進	45
④	地域活動に必要な学習機会の提供	47
⑤	食育を通じた健全な子どもの育成	49
	基本目標4 ふるさとの伝統文化の継承と文化芸術の振興	
①	伝統芸能の継承	51
②	文化財保護事業の推進	53
③	文化芸術の振興	56
	基本目標5 スポーツで輝く夢のあるまちづくりの推進	
①	学校と地域における子どものスポーツ機会の充実	59
②	ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	61
③	スポーツを活用した地域の活性化	64
④	市民が主体的に参画できるスポーツ環境の整備	66
III	教育委員会の運営状況	68
(1)	教育委員会の開催状況	
(2)	教育委員の活動状況	

# I 点検・評価の趣旨等

## 1 点検・評価の趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定により、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、教育委員会自らが、教育行政事務の管理及び執行状況について、点検及び評価を行い、その結果を報告書にまとめ、議会に提出するとともに公表します。

事業の点検・評価を実施することで、今後のより効率的で効果的な事業の展開に資するものとしします。

## 2 点検・評価の対象

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第21条で教育委員会の職務権限とされている事務のほか、本市教育委員会が所管するすべての事務を対象としますが、実際の点検・評価にあたっては、「能代市教育等の振興に関する施策の大綱」に記載されている基本目標及び施策の方向性に沿って実施します。

## 3 学識経験者の知見の活用

点検・評価の客観性を確保するため、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条第2項で、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることが求められていることから、教育に関し学識経験を有する次の2名の方から、意見をいただきました。

秋田大学教育文化学部教授 佐藤修司氏  
元能代第二中学校校長 佐藤敬顕氏

## 4 報告書の作成

報告書の作成スケジュールは、次のとおりです。

- ①各課及び施設等において、所管事務の点検・評価案（点検・評価シート）を作成
- ②学識経験者から、点検・評価案について意見を聴取
- ③点検・評価案に学識経験者の意見を加えて、報告書として作成
- ④教育委員会8月定例会で、報告書について議決
- ⑤報告書を9月議会に提出するとともに、ホームページ等で公表

## II 点検・評価の結果

【 学校教育課 】

基本目標	1 豊かな人間性を育む学校教育の推進
施策項目	① 主体的で創意ある教育活動の推進
方針・目標	児童生徒の感性を磨き、創造力を豊かにするために、各学校の主体的で創意ある教育活動の実施を推進します。
事業・取組名	(1) 学習指導要領の趣旨を踏まえた特色ある教育計画の立案と実践・評価 (2) 読書に親しむ態度と望ましい読書習慣の定着 (3) ふるさと教育の趣旨を生かした教育活動の推進 (4) 宇宙・科学技術の学びの充実
目標値	(1) 学校関係者評価を実施し、全ての学校でその結果を公表します。 (2) ・「不読率」を県平均より下回るようにします。 ・学校図書館の図書標準率 100%を目指します。 ・学校図書館を学習センターとしての機能向上を図ります。 (3) ふるさと教育の全体計画に基づき学習活動を行い、成果を小学生ふるさと学習交流会や中学生ふるさと会議で発表します。 (4) 子ども館を利用した体験的理科授業を行う小・中学校の増加を図ります。
前年度項目	2 学校教育 (1) 主体的で創意に満ちた教育活動の推進
前年度の意見と対応	①中学校での本に親しめる環境づくり ⇒学校図書館の環境づくりのアイデア提供に努めています。 ②学校図書館の学習センターとしての機能 ⇒よい取組について情報交換できる組織づくりに努めています。 ③ふるさと教育、キャリア教育の意識調査や進路調査 ⇒秋田県の学習状況調査を分析し、小学生ふるさと学習交流会や能代っ子中学生ふるさと会議の内容を検討します。
事務事業の実績	(1) 学習指導要領の趣旨を踏まえた特色ある教育計画の立案と実践・評価 「あきた型学校評価システム」により、学校関係者評価を実施し、市内19校全ての学校でその結果を公表することで、学校・家庭・地域が相互に連携することの重要性を指導した。 (2) 読書に親しむ態度と望ましい読書習慣の定着 ①「能代市子ども読書推進計画」に基づいた取組 ア 能代市読書交流パンフレット「能代っ子おすすめの一冊・心の一冊」を10月の読書週間に合わせて各校に配付し、環境を整えるための掲示として活用するよう促した。 イ 各校の特色のある読書活動を共有し児童生徒の指導に生かすために、諸活動実践事例集「目指せ！不読率0」を発行した。 ウ 県立図書館、県生涯学習課生涯学習・読書推進班、市立図書館、市生涯学習・スポーツ振興課と連携し、学校図書支援員及び図書館担当教諭の充実した研修機会の確保に努めた。 ②学校図書館図書標準達成状況の改善 ア 各校の学校図書館図書標準達成状況に応じた、図書整備費を措置した。 イ 平成27年11月「能代市立各小・中学校所蔵資料除籍規準」「今後特に考慮してほしい点」を策定し、各校が今後取り組むべき点を明確にした。

③学習センターとしての機能

- ア 研修会で県生涯学習課指導主事より学んだ「ビブリオバトル（書評合戦）」を国語の授業や集会等で実践し、成果と課題を「目指せ！不読率0」の実践事例集にまとめた。
- イ 社会科や総合的な学習の時間を中心に学校図書館を利用した授業を行い、学校図書館の利用率アップにつなげている。

(3) ふるさと教育の趣旨を生かした教育活動の推進

①地域の自然や人間、社会、文化を生かした教育計画づくりに基づいた取組

- ア 小学校で「ふるさと学習交流会」、能代市の目指す基本理念、三つの「わ」を基にしたテーマでパネルディスカッションを計画した中学校の「能代っ子中学生ふるさと会議」を開催
- イ 特色ある教育活動を教育情報誌「教育のしろ」「ふいご」等で紹介

②ふるさと学習交流会 発表校4校の内容

- ・ 淳城南小学校 「ふるさとの味自慢 ～これこそ能代の味だ～」
- ・ 向能代小学校 「向能代の今・昔」
- ・ 崇徳小学校 「檜山グルメの旅 ～檜山納豆・檜山茶編～」
- ・ 常盤小学校 「常盤かがやき隊、炭を作る～森とつながるぼくらの思い～」

③能代っ子中学生ふるさと会議

- ア 体験活動発表 テーマ「魅力あるまち『能代』にするために ～今、自分たちにできることは～」
  - ・ 常盤中学校 「地域・人・発見」
  - ・ 能代第一中学校 「一中若の取組と課題」
  - ・ 能代南中学校 「能代市から宇宙へ ～未来へ向かって～」
- イ パネルディスカッション  
「いじめゼロに向けた3か条」の作成

④人々とのかかわりから学ぶ体験活動の推進

- ア 学校支援ボランティアを活用した体験活動
- イ 補助金制度（常盤小と鶴形小の森林環境学習活動支援事業）や機材の提供（第四小の環境教育支援校）を活用した体験活動の推進

(4) 宇宙・科学技術の学びの充実

子ども館を理科の学びの場として活用する学校が増えた。

点検・評価

- 目標を上回る       ほぼ目標どおり       目標をやや下回る  
 目標を大幅に下回る

[説明]

(1) 学習指導要領の趣旨を踏まえた特色ある教育計画の立案と実践・評価  
 全ての学校でその結果を公表した。

(2) 読書に親しむ態度と望ましい読書習慣の定着

① 不読率について

平成26年度は、中学校で県平均を上回っていた（中1→+2.8P、中2→+3.9P）が、平成27年度は次のとおり全ての学年が県平均を下回るよい結果となった。

【平成27年度県学習状況調査 質問紙結果】

学 年	能代市	県比較
小学4年	2.5%	-0.1P
小学5年	1.3%	-2.0P
小学6年	2.1%	-2.3P
中学1年	5.0%	-2.1P
中学2年	6.6%	-1.9P

② 学校図書標準率について

予算の重点配分等により図書状況が安定してきている。

学 校	平成26年度	平成27年度
小学校平均	93.8%	107.9%
中学校平均	97.2%	97.3%

③ 学習センターとしての機能

ア 小学校での事例

- ・国語の授業の中に並行読書を取り入れる。
- ・国語や社会の教科書に登場する、教科書教材以外の本や歴史上の人物の本などを教室に設置する。
- ・全校辞書引きコンクールを行う。

イ 中学校での事例

- ・図書室で授業をする。
- ・全校でビブリオバトル大会やブックトーク集会を行う。
- ・本の紹介のしおりやシート、ポップなどを、生徒が一番通る階段の踊り場などに掲示する。

(3) ふるさと教育の趣旨を生かした教育活動の推進

① ふるさと学習交流会の感想

- ・地域の歴史や能代市の良いところを調べることに意義があり、伝統芸能を指導され継承されていく姿を見ることができた。
- ・能代市民歌を子どもたちが心をこめて歌っている姿に感動した。

② 能代っ子中学生ふるさと会議の参観者の感想

- ・生徒たちは、それぞれの学区の財産をよく調べ、堂々と発表していて、ふるさとの未来を担う気持ちが伝わり感動した。
- ・パネルディスカッションでは、生徒たちが能代の将来を真剣に考え、人を思いやる優しい心をもつこと、感謝することの大切な提言に共感した。

	<p>③秋田県学習状況調査質問紙の結果より</p> <p><b>【将来の夢や目標を持っている】</b></p> <table border="1" data-bbox="475 241 970 521"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>能代市</th> <th>県比較</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学4年</td> <td>96.5%</td> <td>+ 1.5p</td> </tr> <tr> <td>小学5年</td> <td>97.7%</td> <td>+ 4.7p</td> </tr> <tr> <td>小学6年</td> <td>94.8%</td> <td>+ 3.4p</td> </tr> <tr> <td>中学1年</td> <td>86.0%</td> <td>+ 3.2p</td> </tr> <tr> <td>中学2年</td> <td>82.1%</td> <td>+ 1.7p</td> </tr> </tbody> </table> <p>(4) 宇宙・科学技術の学びの充実</p> <p><b>【子ども館利用数】</b></p> <table border="1" data-bbox="480 645 1206 786"> <thead> <tr> <th>学 校</th> <th>平成 26 年度</th> <th>平成 27 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>15 校</td> <td>19 校</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>2 校</td> <td>2 校</td> </tr> </tbody> </table>	学年	能代市	県比較	小学4年	96.5%	+ 1.5p	小学5年	97.7%	+ 4.7p	小学6年	94.8%	+ 3.4p	中学1年	86.0%	+ 3.2p	中学2年	82.1%	+ 1.7p	学 校	平成 26 年度	平成 27 年度	小学校	15 校	19 校	中学校	2 校	2 校
学年	能代市	県比較																										
小学4年	96.5%	+ 1.5p																										
小学5年	97.7%	+ 4.7p																										
小学6年	94.8%	+ 3.4p																										
中学1年	86.0%	+ 3.2p																										
中学2年	82.1%	+ 1.7p																										
学 校	平成 26 年度	平成 27 年度																										
小学校	15 校	19 校																										
中学校	2 校	2 校																										
<p>課 題 及 び 今 後 の 取 組 の 方 向 性</p>	<p><input type="checkbox"/>拡充    <input checked="" type="checkbox"/>継続    <input type="checkbox"/>廃止検討    <input type="checkbox"/>その他 (                    )</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <p>(2) 読書に親しむ態度と望ましい読書習慣の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館の充実を図り、学校図書標準率においてすべての学校で100%を達成することにより、児童生徒が本に親しむ環境の向上を図る必要がある。</li> <li>・学習センターとしての機能を高めるために、各校の取組について「パワーアップ! 目指せ 不読率0」の冊子にまとめるだけでなく、「ふいご」や「教育のしろ」等能代市教育委員会発行の教育情報紙に適宜掲載し、積極的に共有を図る必要がある。</li> </ul> <p>(3) ふるさと教育の趣旨を生かした教育活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校のふるさと学習交流会、中学生ふるさと会議は、参加者の感想から非常によい取組であることがとらえることができる。今後も児童生徒、保護者のアンケートを実施してふるさと学習の成果を把握する。</li> <li>・中学生ふるさと会議は27年度から3年、能代市の目指す基本理念、三つの「わ」を基にしたテーマでパネルディスカッションを計画しており、27年度の「和」は、「能代っ子 いじめゼロに向けた三か条」。28年度の「環」は、「能代のキャッチフレーズ策定」。29年度の「輪」は、「能代っ子 残したい能代の宝10選」を計画している。</li> </ul>																											
<p>学 識 経 験 者 の 意 見</p>	<p>○学校関係者評価について、その評価結果をもとに対策を練り、改善に取り組み、次年度に評価するようなサイクルになるよう期待したい。</p> <p>○読書を含めて、様々な情報収集・分析・発表等の力がつくよう、ふるさと教育、各教科等、教育課程全体での総合的な取組を今後とも期待したい。</p> <p><input type="checkbox"/>学校関係者評価での提言や意見をふまえた具体的な改善策を構築して、特色ある教育活動の一層の実践に取り組んでほしい。</p> <p><input type="checkbox"/>図書室で授業を行ったり、全校でビブリオバトル大会を行ったりするなどの活動を通して、これまで県平均を上回っていた中学校での不読率が改善された。今後とも、教育情報誌「ふいご」や「教育のしろ」等に各校の取組を適宜紹介するなどして、児童生徒が本に親しめる環境づくりに取り組んでほしい。</p> <p><input type="checkbox"/>「小学生ふるさと学習交流会」、「中学生ふるさと会議」では、児童生徒のふ</p>																											



	<p>るさを誇りに思う気持ちと、ふるさとの未来を担いたいという思いが感じられ、すばらしい。</p> <p>□今後のふるさと教育では、これまで以上にふるさとの今（現状）とのかかわりということについて取り上げたいと思う。人口減少によって、ふるさとの貴重な人材が他に流出していることや、機械化の進展に伴って農業の様相が大きく変わってきていることなどについて、児童生徒に考えさせたい。</p>
--	--

基本目標	1 豊かな人間性を育む学校教育の推進
施策項目	② 心豊かでたくましい子どもを育てる指導
方針・目標	いじめや不登校等の生徒指導上の問題について、未然防止や早期発見等、適切な対応に努めます。
事業・取組名	(1) 生き方を探求し自立を促す指導 (2) 自己実現を支える生徒指導 (3) 健やかな心と体の育成 (4) 防災教育の推進 (5) 一人一人を生かす特別支援教育
目標値	(1) 「将来の夢や目標をもっている」と思う児童生徒の割合を、80%以上にします。 (2) 不登校の出現率を1,000人当たり6.0人以下にします。 (3) すべての学年において体力合計点を県平均以上にします。 (4) すべての学校で、地域や家庭と連携した防災訓練を実施します。 (5) すべての学校で、個別の指導計画に基づく実践をし、作成状況を100%にします。
前年度項目	2 学校教育 (3) 心豊かでたくましい子どもをはぐくむ指導
前年度の意見と対応	①いじめ、不登校、問題行動への対応について ⇒心の教室相談員の配置や「はまなす広場」の設置等、きめ細かな手だてで対応しています。 ②教職員の日頃の指導について ⇒チーム対応できる体制づくりを呼びかけ、各関係機関と連携を図りながら対応するよう働きかけています。 ③Q-U検査について ⇒検査結果を活用し、中1ギャップの軽減やいじめ、不登校の未然防止に役立てています。
事務事業の実績	(1) 生き方を探求し自立を促す指導 ・学校訪問（所長訪問随行、全学級訪問、教育長訪問、要請訪問）において、授業改善について具体的に指導助言した。 ・児童生徒の主体性を促すためのテーマ設定や、自己を見つめる時間の重要性について代案や事例を示し、具体的に指導助言した。 ・児童生徒の心を育てるよい取組については、教育情報紙「ふいご」や「教育のしろ」に掲載し、共有化を図った。 (2) 自己実現を支える生徒指導 ①心の教室相談員の配置（小：12校中5校に5名、中：7校中全校に6名配置） ・1年間に心の教室を訪れた人数(延べ人数)10,373名、年間の相談件数288件 ・相談員がかかわった不登校児童生徒の総数13名、内改善傾向8名 ・いじめに関わる相談0件

- ②適応指導教室「はまなす広場」の設置（不登校児童生徒への個別指導）
    - ・通級者12人 内復帰した児童生徒数3人
    - ・登校に向けて風の子電話との連携を強化
  - ③「風の子電話」の設置（電話や来所による教育相談）
    - ・年間相談件数 電話38件 来所79件（不登校63件、生活態度13件、いじめ2件、その他（進路や転学等）39件）
    - ・学校や教育研究所、適応指導教室、他機関との連携
  - ④不登校保護者会の開催（不登校児童生徒をもつ保護者の援助活動）
    - ・毎月第3木曜日19:00～21:00
    - ・保護者延べ14名参加、H27は児童生徒の学校復帰なし
  - ⑤児童生徒支援アドバイザーの活用
    - ・4～6月全小・中学校を訪問しての実態把握
    - ・風の子電話に寄せられた相談を把握するとともに、即学校に訪問し学校と連携して対応策を考えた。
  - ⑥各小・中学校への指導
    - ・不登校対策事業のリーフレット等の保護者への配付とホームページへの掲載
    - ・支援を要する児童生徒の月例報告とそれに対する指導助言
    - ・市生徒指導主事会での情報交換や未然防止の取組の呼びかけ
    - ・不登校・いじめ防止研修会の実施（全小中学校職員対象）
    - ・中学生ふるさと会議での「能代っ子いじめゼロ宣言」
    - ・Q-U検査の実施（小学校5・6年、中学校1・2年、年2回）
    - ・心の教室相談員、教育相談員、スクールカウンセラーを校内の生徒指導研修会等への活用
- (3) 健やかな心と体の育成
- ①新体力テストの実施と分析
 

実施後の結果を基に分析を行い、市教委会報「ふいご」に掲載して各校に周知した。
  - ②「早寝・早起き・朝ご飯」の推進
 

年間を通して、県教委が掲げる「早寝・早起き・朝ご飯」を呼びかけたり、情報を提供したりした。
  - ③性に関する指導計画の作成と取組の呼びかけ
 

各校の性に関する指導計画を把握し、内容の指導を行った。
  - ④薬物乱用防止教室開催の呼びかけ
 

薬物乱用防止教室を学校保健計画において位置付け、すべての中学校において年一回は開催するとともに、地域の実情に応じて小学校においても開催に努めるよう呼びかけた。
- (4) 防災教育の推進
- ①「県民防災意識高揚強調週間」における避難訓練・防災訓練の実施の呼びかけ
 

学校・家庭・地域が一丸となった避難訓練や防災訓練の取組や地域防災委員会の開催を促した。

	<p>②「防災リーフレット」による学校・家庭への啓蒙 児童生徒に「防災リーフレット」を配付して、各校での防災学習での活用の呼びかけと家庭での啓蒙を図った。</p> <p>(5) 一人一人を生かす特別支援教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校で作成した「個別の指導計画」を提出してもらい、内容を確認する。</li> <li>・学校訪問等で、「個別の教育支援計画」の作成を依頼する。</li> </ul>																		
点検・評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る																		
	<p>[説明]</p> <p>(1) 生き方を探求し自立を促す指導</p> <p><b>【将来の夢や目標を持っている P. 5の表の再掲】</b></p> <table border="1" data-bbox="470 616 965 896"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>能代市</th> <th>県比較</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学4年</td> <td>96.5%</td> <td>+ 1.5p</td> </tr> <tr> <td>小学5年</td> <td>97.7%</td> <td>+ 4.7p</td> </tr> <tr> <td>小学6年</td> <td>94.8%</td> <td>+ 3.4p</td> </tr> <tr> <td>中学1年</td> <td>86.0%</td> <td>+ 3.2p</td> </tr> <tr> <td>中学2年</td> <td>82.1%</td> <td>+ 1.7p</td> </tr> </tbody> </table> <p>すべての学年で、県平均を上回っている。キャリア教育の視点による学習や行事等教育課程の工夫、また、心を育てる道徳の時間の実践が行われている成果だと考えられる。</p> <p>(2) 自己実現を支える生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめは、小学校24件、中学校4件が報告された（H26小3件、中6件）。認知件数は増加しているが、各校でいじめの定義を周知して、早期段階のいじめを積極的に認知した結果だと思われる。積極的な認知がいじめの早期発見、即時対応につながると考える。</li> <li>・不登校の出現率は7.8人（1000人あたり）で、国の12.1人、県の8.9人（H26）より下回った。また、前年度の市の7.9人よりも下回った。</li> <li>・全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しい」の回答で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合は小学校で90.2%、中学校で84.4%であった。県平均より小学校で0.1ポイント、中学校で3.1ポイント下回っており、否定的な回答をしている児童生徒に相談活動等を通してきめ細かい支援をしていくよう、各校に指導していく必要がある。</li> </ul> <p>(3) 健やかな心と体の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新体力テストの結果、中学2年男子以外は、体力合計点は県平均を上回った。ただし、種目別で見ると県平均を下回っている種目があり、学年によって課題が見られる。</li> <li>・薬物乱用防止教室は、中学校7校中6校が実施することができた。</li> </ul> <p>(4) 防災教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県民防災意識高揚強調週間の期間中、市内の小中学校19校中18校が地震・津波を想定した避難訓練を実施した。</li> <li>・保護者・地域住民と連携しながら避難訓練を実施した学校は19校、地域防災委員会を開催した学校は15校であった。</li> </ul>	学年	能代市	県比較	小学4年	96.5%	+ 1.5p	小学5年	97.7%	+ 4.7p	小学6年	94.8%	+ 3.4p	中学1年	86.0%	+ 3.2p	中学2年	82.1%	+ 1.7p
学年	能代市	県比較																	
小学4年	96.5%	+ 1.5p																	
小学5年	97.7%	+ 4.7p																	
小学6年	94.8%	+ 3.4p																	
中学1年	86.0%	+ 3.2p																	
中学2年	82.1%	+ 1.7p																	

	<p>(5) 一人一人を生かす特別支援教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「個別の指導計画」については、作成はしているが提出していない学校がいくつかあった。</li> </ul>
<p>課題及び今後の取組の方向性</p>	<p style="text-align: center;"> <input type="checkbox"/> 拡充    <input checked="" type="checkbox"/> 継続    <input type="checkbox"/> 廃止検討    <input type="checkbox"/> その他 (                    ) </p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <p>(1) 生き方を探求し自立を促す指導</p> <p>「将来の夢や目標をもっている」の肯定的回答の数値が、すべての学年で県平均を上回って入るものの、中学校が80%台であるため、「能代っ子中学生ふるさと会議」等と関連させ、自己の将来について考える時間を確保することで、さらにキャリアプランニングできる生徒を育てていく必要がある。</p> <p>(2) 自己実現を支える生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いじめ問題対策連絡協議会」を年2回開催して本市のいじめ問題の現状を把握し、学校・家庭・地域その他関係者が連携を図って対応する。また自己有用感を高め、すべての児童生徒が安全・安心した学校生活を送れるよう、各校のいじめ防止基本方針を学校・家庭・地域で共有していくことで、いじめは絶対に許さないという環境をつくる。</li> <li>・指導主事並びに児童生徒支援アドバイザーは、全ての学校の児童（生徒）を語る会に参加して、各校の不登校・いじめ等の生徒指導上の問題を把握し、学校と教育委員会が連携しながらその改善策について考える。</li> <li>・小学校5年生から中学校2年生を対象にQ-U検査（「楽しい学校生活を送るためのアンケート」）を実施し、中一ギャップの軽減や不登校・いじめの未然防止、早期発見、適切な対応に生かす。</li> </ul> <p>(3) 健やかな心と体の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各校においてテストの結果を分析し、体育の授業を中心に、意図的・計画的に弱い部分を強化するよう働きかけていく。</li> <li>・学校保健計画の中に、性に関する学習活動や薬物防止乱用教室を明確に位置付けていくことで、意図的・計画的に取り組んでいくようにする。</li> </ul> <p>(4) 防災教育の推進</p> <p>P D C A サイクルを活用しながら、防災マニュアルを改訂していくよう各校に周知していく。また、地域防災委員会の意見を参考に、地域の実態把握を行いながら防災計画を立てていけるよう働きかける。</p> <p>(5) 一人一人を生かす特別支援教育</p> <p>「個別の指導計画」に基づく実践と、「個別の教育支援計画」の作成を学校訪問や特別支援教育の研修会で呼びかけ、事務点検で確認する。</p>
<p>学識経験者の意見</p>	<p>○いじめや不登校などの課題に対してさまざまな取組が行われており、継続して取り組んでいただきたい。</p> <p>○防災訓練での保護者・地域住民との連携は重要であり、ぜひ充実させていただきたい。</p> <p>□「将来の夢や目標をもっている」と答えた児童生徒の割合が、全ての学年において県平均を上回っており、各校が日頃実践しているキャリア教育の視点での</p>

	<p>学習活動の成果であるとする。</p> <p><input type="checkbox"/> いじめや不登校等の問題に対応するために、心の教室相談員や児童生徒支援アドバイザーを引き続き配置したり、「はまなす広場」や「風の子電話」を設置したりするなど、きめ細かな手だてが講じられ、結果として、不登校の出現率が前年度よりも下回った。今後とも、これらの施策や取組を継続してほしい。</p> <p><input type="checkbox"/> Q-U検査は、学級内での子どもたちの人間関係を把握するうえで有効であり、年2回の検査結果を分析し、中1ギャップの軽減やいじめ、不登校等の未然防止に役立ててほしい。</p> <p><input type="checkbox"/> 各校では、毎年、性に関する集会や薬物防止に関する教室を開催するなどして健やかな心と体の育成に努めており、今度とも学校保健計画の中に、これらの学習の機会を明確に位置づけて取り組んでほしい。</p>
--	--

基本目標	1 豊かな人間性を育む学校教育の推進
施策項目	③ 基礎学力の向上を図る学習指導
方針・目標	児童生徒に主体的な学習の場を保証し、学力の向上を図ります。
事業・取組名	(1) 基本的な学習習慣の確立 (2) 子どもが主体的に取り組める学習指導 (3) 評価を生かした授業改善 (4) ねらいに即した ICT の効果的な活用
目標値	(1) 「学校がある日の勉強時間」(1時間以上勉強している児童生徒の割合)が県平均を上回るようにします。 (2) 学習意欲に関する評価が小学生で80%以上、中学生で60%以上、児童生徒同士の学び合いに関する評価が、小・中学校とも90%以上を目指します。 (3) 授業改善の取組事例を、教育情報紙で9授業以上紹介します。 (4) ICTの効果的な活用方法の情報交換を行います。
前年度項目	2 学校教育 (2) 基礎学力の向上を図る学習指導
前年度の意見と対応	①児童生徒が主体的に取り組めるような授業づくり ⇒学校訪問や情報紙等で「秋田の探究型授業」の定着に努めています。 ②よりよい研修体制の構築 ⇒講師等研修会、中堅教員研修会等で学校間の交流の確保に努めています。
事務事業の実績	(1) 基本的な学習習慣の確立 県学習状況調査の学校分析と補充・改善の実施、中堅教員研修会、研究主任会での情報交換及び指導助言等を実施した。 (2) 子どもが主体的に取り組める学習指導 ①県学習状況調査の学校分析と補充・改善の実施、研究主任会での情報交換及び指導助言等を実施した。 ・個々の児童生徒の補充学習実施の促進を図った。 ・学校や教師の課題を明確にした授業改善の促進を図った。 ・授業改善のための研究主任のリーダーシップを促す支援をした。 ②研修機会(講師等研修会、理科学力向上研修会、研究主任会等)の提供と各校の情報共有を行った。 ・拠点校・協力校英語授業改善プログラム(淳西小・能一中)の公開授業において、小・中担当教諭が2020年の教科化に向けた方向性を共有化した。 ・能代市山本郡の講師を対象に、講師等研修会を2回(8月、1月)開催し、授業の導入から課題設定までの場面の在り方や話合いのさせ方について指導助言した。 ・全小学校の理科担当者を対象に「理科学力向上研修会」を開催し、理科の学習の進め方や指導方法の情報交換を行った。 ・各校の校内研究や学校の特色ある教育活動を紹介する紀要「教育課程の展開と実践『能代の教育』」を発行(2月)した。

(3) 評価を生かした授業改善

- ・学校訪問（所長訪問随行、全学級訪問、教育長訪問、要請訪問）において、授業改善について具体的に指導助言した。
- ・児童生徒の主体性を促すための課題設定や、話し合い活動の在り方について代案や事例を示し、具体的に指導助言した。
- ・児童生徒の主体性が見えるよい取組については、教育情報紙「ふいご」や「教育のしろ」に掲載し、共有化を図った。

(4) ねらいに即した ICT の効果的な活用

情報教育研修会での授業や実践発表から、ねらいに即した ICT の効果的な活用の取組について、教育情報紙「ふいご」や「教育のしろ」に掲載し、共有化を図った。

点検・評価  目標を上回る       ほぼ目標どおり       目標をやや下回る  
 目標を大幅に下回る

(1) 基本的な学習習慣の確立

学習状況調査（H27年12月実施）の結果は、小学校では全教科で県平均を上回った。中学校では、10教科のうち9教科は県平均を上回っているが、中2の理科のみ0.2ポイント県平均を下回った。中2の理科は2年連続県平均を下回る結果となった。

【学校がある日の勉強時間（1時間以上勉強している児童生徒の割合）】

学年	能代市	県比較
小学4年	33.5%	- 2.8p
小学5年	73.3%	+22.4p
小学6年	70.4%	+ 8.7p
中学1年	63.0%	- 8.2p
中学2年	64.0%	- 4.0p

3学年で県平均を下回る結果であった。小・中が連携した学び方指導、家庭への啓蒙等を小・中学校に指導する必要がある。

(2) 子どもが主体的に取り組める学習指導

①学習意欲は「勉強が好きだ」の割合

学年	能代市	県比較
小学4年	80.3%	- 2.6p
小学5年	92.7%	+ 17.2p
小学6年	85.3%	+11.7p
中学1年	60.4%	+ 5.5p
中学2年	44.6%	-3.8p

平成26年度より小・中ともに10%高い目標値を設定したが、小4から中1までは、目標値を上回った。特に、小5では、10ポイント上回る結果であり、各教科の結果も全て高かった。逆に、中2では目標値を10ポイント下回り、理科の成績が県平均を下回ったことから、学習意欲と成績の相関関係についてさらに分析する必要がある。



②「ふだんの授業では、学校の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思う」の割合

学年	能代市	県比較
小学4年	92.9%	+ 0.1p
小学5年	99.2%	+ 6.1p
小学6年	98.3%	+ 3.4p
中学1年	93.8%	+ 1.4p
中学2年	92.6%	- 1.4p

平成 26 年度より小・中ともに 5%高い目標値を設定したが、全ての学年で目標値を上回った。授業者が子ども主体の授業を構築しようとしていることが伺える。

(3) 評価を生かした授業改善

次の授業例等を 9 授業紹介した。

例①東雲中（音楽）：リコーダーの発表後の感想で、生徒がハーモニーのことを話すと教師がすぐに、「今日のポイントと違う」と助言。本時のねらいを押さえる授業とはこのような授業である。

例②竹生小（社会）：資料を見て気付いたことだけでなく「～だから～なことが分かる」とノートに書くよう指示。思考力・判断力・表現力が高まるための指導である。

(4) ねらいに即した ICT の効果的な活用

効果的な授業例：湊城西小学校（総合的な学習の時間）と豊島区立目白小学校との web 会議システムによる交流授業。離れた地域の子も同士がお互いの郷土料理を紹介し合うなど、他地域の様子を学ぶ学習において効果的な手立てであった。

実践発表：スマホを活用して机間指導しながら電子黒板を操作する方法など、子どもたちの集中が持続するためにどの場面で ICT 機器を活用することがよりねらいに到達できるかということが詳細に考えられた教材研究と ICT 機器の関連を考える実践発表であった。

課題及び今後の取組の方向性

拡充     継続     廃止検討     その他（                      ）

[具体的な課題及び取組]

- ・平成 26 年、27 年と 2 年連続、県の学習状況調査（中 2 理科）において県平均を下回ったことを受け止め、28 年度は、小・中合同の理科学力向上研修会を開催し、小・中の連続性と授業改善のポイントについて指導する。
- ・中堅教員研修会等で、「学習意欲」と「学力」の相関関係を意識した授業改善について研究を進め、中堅教員の指導力向上を図る。

学識経験者の意見

○授業改善、学力向上に向けた取組が十分に行われている。特に小学校 4 年生（現在 5 年生）の値に問題が見られるので、この年齢集団について、原因の分析と、対策の工夫・徹底をお願いしたい。

□学校訪問（所長訪問随同行、全学級訪問、教育長訪問、要請訪問）は、各学校が評価を生かして授業改善に取り組めるようなサイクルになっており、適切と思う。

□秋田県学習状況調査では、小学校では全教科で、中学校ではほとんどの教科で県平均を上回っており、引き続き良好な状況と言える。また、学習意欲や学び

	<p>あいについても概ね良好である。今後とも、児童生徒が主体的に取り組めるような授業づくりに努めていってほしい。</p> <p>□児童生徒に「主体的な学習とはどのようなものか」を実感させたいものである。そのためには、自校又は他校において、主体的な学習が行われていると思われる学級の授業を、児童生徒に直に見せたいものである。学級間や学校間で見せたい授業について情報交換し、授業参観し合えるような仕組みを、市教育委員会が窓口となって構築してはどうか。</p> <p>□「平成27年度能代市の教育～教育課程の展開と実践～」は、紙面構成が工夫されており、各校の取組が分かりやすくまとめられている。研究をリードする研究主任の視点で紹介している「本校の自慢」と「研究主任として力を入れてきたこと」が、明確に伝わってくる。</p>
--	--

基本目標	1 豊かな人間性を育む学校教育の推進
施策項目	④ 幅広い識見と実践的指導力を培う教職員の研修
方針・目標	学校や教職員の課題に応じた研修機会の提供と充実により、教職員の識見を広げ、実践的指導力を向上させます。
事業・取組名	(1) 学力向上のための研修 (2) 安全・安心な学校づくりのための研修 (3) 学びをより豊にするための研修
目標値	各研修会参加者の肯定的評価が、4段階評価で3.6以上となるようにします。
前年度項目	2 学校教育 (4) 幅広い識見と実践的指導力を培う教職員の研修
前年度の意見と対応	<p>①諸課題の改善に立ち向かうことのできる教員を育てる研修の場の提供を。 ⇒各種研修会のねらいを明確にし、研修成果を参加者が実感できるよう、プログラムの改善を図り、参加者の満足度の高い研修を目指します。</p> <p>②「中堅教員研修会」の実施は、ミドルリーダーとしての自覚を促すとともに、指導力の維持・発展、継承という観点からも適切と思う。 ⇒中堅教員の意識を高めるためにも、やりがいを感じることでできる内容を充実させるとともに、授業研修及び県総合教育センターでの発表をセットとした研修を継続していきます。</p> <p>③事業の推進では、各研究指定校が事業の目的の達成に向けて実効性のある取組を展開できるよう、県教育委員会と連携を図りながら支援して欲しい。 ⇒県教育委員会と連絡調整を密にし、学校が確実に成果をあげられるようにすることが大切と考えています。今後は、県教育委員会と連携を図り、指定校以外の学校への成果普及を視野に入れ、指定校への支援を継続していきます。</p>
事務事業の実績	<p>①職務別研修を実施した。</p> <p>ア 教務主任・研究主任の合同研修会（7、1月） ミドルリーダーとして期待されることについての講義、情報交換</p> <p>イ 研究主任会（11月） 豊島区教員派遣報告、教育専門監の授業DVDの活用</p> <p>ウ 中堅教員研修会（6、8、1月） 1年間を通しての研究、豊島区への派遣、県総合教育センターでの発表等</p> <p>エ 特別支援教育担任等研修会（7月） 秋田大学非常勤職員を講師とした講義、情報交換</p> <p>オ 中堅教員及びベテラン教員を対象に教員研修（1月） 豊島区への教員派遣</p> <p>②教職経験者研修を実施した。</p> <p>ア 初任者研修（5、8月） 1回目：服務及びいじめ・不登校防止についての講義、学習指導・生徒指導についての成果と課題 2回目：能代市の主な施設の視察</p> <p>イ 講師等研修（8、1月） 1回目：指導主事による講義、教材・教具の活用の工夫 2回目：教育専門監の模擬授業、授業における成果と課題の検討 学校訪問指導の際の指導主事による助言</p>

	<p>③テーマ別研修を実施した。</p> <p>ア 読書活動推進研修会（５月と１月）</p> <p>イ モデルロケット研修会（５月）</p> <p>ウ 不登校、いじめ防止訪問研修会（５～７月）</p> <p>エ 情報モラルネットトラブル研修会（８月）</p> <p>オ 理科学力向上研修会（６月）</p> <p>カ 東京都豊島区との教育連携を生かした研修</p>															
点検・評価	<p><input type="checkbox"/>目標を上回る      <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ目標どおり      <input type="checkbox"/>目標をやや下回る</p> <p><input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p>															
	<p>[説明]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・秋田大学と連携した特別支援教育研修会、情報モラルネットトラブル研修会等を企画・運営し、学校現場へ学校や市の課題に応じた研修会を提供することができた。</li> <li>・教育専門監の模擬授業の提示により、指導方法の改善に向け、具体を示すことができた。</li> <li>・中堅教員に対しミドルリーダーとしての自覚を促し、実践知の継承を意図的に行うことについて、各校に問題提起をすることができた。</li> <li>・それぞれの研修会で４段階の事後アンケートを実施したところ、参加者から内容が実践的で分かりやすかったなどの評価を得ている。</li> </ul> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">合同研修会(教務・研究) １回目</td> <td style="padding-left: 20px;">実践 3.5</td> <td style="padding-left: 20px;">内容 3.8</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">２回目</td> <td style="padding-left: 20px;">実践 3.9</td> <td style="padding-left: 20px;">内容 3.9</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">特別支援教育研修会（秋大連携）</td> <td style="padding-left: 20px;">実践 3.8</td> <td style="padding-left: 20px;">内容 3.8</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">初任者研修Ⅰ（ワークショップ）</td> <td style="padding-left: 20px;">実践 4.0</td> <td style="padding-left: 20px;">内容 4.0</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">初任者研修Ⅱ（視察研修）</td> <td style="padding-left: 20px;">実践 4.0</td> <td style="padding-left: 20px;">内容 4.0</td> </tr> </table>	合同研修会(教務・研究) １回目	実践 3.5	内容 3.8	２回目	実践 3.9	内容 3.9	特別支援教育研修会（秋大連携）	実践 3.8	内容 3.8	初任者研修Ⅰ（ワークショップ）	実践 4.0	内容 4.0	初任者研修Ⅱ（視察研修）	実践 4.0	内容 4.0
合同研修会(教務・研究) １回目	実践 3.5	内容 3.8														
２回目	実践 3.9	内容 3.9														
特別支援教育研修会（秋大連携）	実践 3.8	内容 3.8														
初任者研修Ⅰ（ワークショップ）	実践 4.0	内容 4.0														
初任者研修Ⅱ（視察研修）	実践 4.0	内容 4.0														

<p>課題及び今後の取組の方向性</p>	<p><input type="checkbox"/>拡充    <input checked="" type="checkbox"/>継続    <input type="checkbox"/>廃止検討    <input type="checkbox"/>その他（                      ）</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <p>①ミドルリーダーを育成する研修の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市中堅教員研修会の実施</li> <li>・教務主任・研究主任合同研修会の内容充実</li> </ul> <p>②教科の指導力向上に関する研修の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初任者研修、講師等研修における具体的な指導方法の提示</li> <li>・中堅教員のテーマ別研修の充実</li> </ul> <p>③生徒指導の機能を指導に生かすための研修の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ・不登校防止訪問研修会の見直し</li> <li>・いじめ問題対策連絡協議会の実施を生かした情報発信</li> <li>・ネットトラブル防止の情報教育の実施</li> </ul> <p>④理科教育の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども館のセンター的機能を生かした事業の拡充</li> <li>・秋田大学と連携してのモデルロケット授業</li> <li>・理科学力向上研修会の実施</li> </ul> <p>⑤特別支援教育の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・秋田大学との連携による研修会の実施</li> </ul> <p>⑥ICT教育を推進するための環境づくりと教員の育成を図る。</p> <p>⑦教育連携を生かした研修を推進する。 （東京都豊島区、茨城県坂東市、長野県箕輪町）</p>
<p>学識経験者の意見</p>	<p>○校外研修を校内研修に結びつけるなど、校内研修についても、調査・把握し、その活性化に努めていただきたい。</p> <p>○教職員が研修等により職能向上に取り組めるよう、その条件整備として、多忙化対策等に取り組んでいただきたい。</p> <p><input type="checkbox"/>各研修会の事後アンケートでの参加者の肯定的評価が、目標値の3.6を上回っており良好と思う。今後とも、実践的で分かりやすい内容の研修となるよう企画・運営に努めてほしい。</p> <p><input type="checkbox"/>研究主任会、中堅教員研修会、特別支援教育担任等研修会、豊島区への教員派遣等を年間の研修計画の中に明確に位置づけており、授業改善についての研究を深め、指導力向上を図るものとなっている。加えて今後は、県総合教育センターで行われる研修講座などへの参加も、一層呼びかけてほしい。</p> <p><input type="checkbox"/>読書活動推進研修会やモデルロケット研修会、理科学力向上研修会等、テーマ別研修の実施を通して、各分野（領域）での指導力の向上と、実践の共有化が図られている。</p>

基本目標	1 豊かな人間性を育む学校教育の推進
施策項目	⑤ 安全・安心な学校教育環境の整備
方針・目標	① 子どもたちの安全を守るための能力の育成や学校安全の徹底を推進します。 ② 学校施設・設備の計画的な整備や小規模小学校の在り方の検討などに取り組みます。 ③ 経済的理由により就学困難と認められる保護者等に対する支援を一層充実させ、子どもたちが安全・安心に過ごせる良好な教育環境をつくります。
事業・取組名	(1) いじめ等の課題の対応【1-②(2)再掲】 (2) 学校安全の推進 (3) 学校施設の耐震化の推進 (4) 学校施設の老朽化対策等の推進 (5) 小規模小学校の在り方についての検討 (6) 就学援助、奨学金貸付事業、ふるさと人材育成・定住促進奨学金事業の利用推進
目標値	(1) いじめ等の課題の解決を図るために、関係機関との連携を図ります。 (2) 学校生活における児童生徒の事故発生ゼロを目指します。 (3) 耐震改修工事は、平成30年度までにすべての学校で実施します。 (4) 老朽化対策については、能代市公共施設等総合管理計画を踏まえた整備計画を策定し、順次実施することとしますが、安全・安心に重大な影響が見込まれるものについては、年度内に対応を図ります。 (5) 小規模小学校の在り方については、地域との合意形成を図ることができるよう慎重に進めます。 (6) 就学援助、奨学金貸付事業、ふるさと人材育成・定住促進奨学金事業の周知を徹底し、さらなる利用の推進を図ります。
前年度項目	1 教育行政 (1) 教育環境の整備
前年度の意見と対応	施設の耐震化等について計画的な実施に努めること。 ⇒各事業とも計画どおりに進捗しています。
事務事業の実績	(1) いじめ等の課題の解決を図るための関係機関との連携 ① 心の教室相談員の配置 小学校12校中5校に5名、中学校7校中全校に6名配置した。 ② 適応指導教室「はまなす広場」の設置（不登校児童生徒の個別指導） 登校に向けて風の子電話との連携を強化した。 ③ 「風の子電話」の設置（電話や来所による教育相談） 学校や教育研究所、適応指導教室、他機関との連携を図った。 ④ 児童生徒支援アドバイザーの活用 風の子電話に寄せられた相談を把握するとともに、即学校に訪問し学校と連携して対応策を考えた。 (2) 学校安全の推進 ① 教育活動における安全指導 学校訪問等で学校安全に関する指導助言を行った。 ② 各学校の実態に即した安全点検等の実施 ・ 関係機関と連携して通学路点検を行い、通学路の改善を図った。 ・ スクールガードリーダー養成研修会を開催し、研修を深めた。

	<p>③学校給食における食の安全の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育デー（毎月19日）に地場産物を多く使用した献立を提供した。</li> <li>・アレルギーの児童生徒を把握し、代替給食を提供した。</li> <li>・異物等が給食に入り込まないように、衛生管理面の徹底を図った。</li> </ul> <p>(3) 学校施設の耐震化の推進 非構造部材耐震改修工事（体育館の照明器具、バスケットゴール等） 第一中、東雲中、常盤中、二ツ井中 （【H28年度へ繰越】 淳西小、淳南小、第二中、南中）</p> <p>(4) 学校施設の老朽化対策等の推進</p> <p>①整備計画の策定 築年数を基準とした整備の方向性を確認した。計画は公共施設等総合管理計画策定後の平成29年度以後に策定することとした。</p> <p>②通常時の調査・点検等 建築士による定期調査、法定・任意点検、職員による随時巡回等により状況を把握し、優先順位を定めて対応した。</p> <p>③教育環境の向上 職員室等への網戸設置や洋式トイレへの改修、保健室への空調設備設置を目標として、年次計画により整備を行うこととした。</p> <p>(5) 小規模小学校の在り方についての検討 小規模小学校の在り方についての検討を始めることにするが、地域の意向を重視した対応に努めることとし、朴瀬小、竹生小、崇徳小、鶴形小、常盤小を対象として「小規模小学校の今後の在り方に関わる世帯アンケート」及び地域懇談会を実施した。</p> <p>(6) 就学援助、奨学金貸付事業、ふるさと人材育成・定住促進奨学金事業の利用推進</p> <p>①就学援助 平成28年3月末で要保護69人、準要保護749人、認定割合は22.2%で、県内でも高い水準となっている。</p> <p>②奨学金貸付事業 採用者 平成26年度 8人、平成27年度 9人</p> <p>③ふるさと人材育成・定住促進奨学金事業 採用者 平成26年度 16人、平成27年度 20人</p>
--	--

点検・評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る  [説明] (1) いじめ等の課題の解決を図るための関係機関との連携 それぞれの立場からいじめ等の課題解決に取り組み、連携を図ることで即時対応がとられた。 (2) 学校安全の推進 関係機関と連携することで、専門家の視点から児童生徒の安全面を考慮し、改善していくことができた。 (3) 学校施設の耐震化の推進 ・28年度予算で工事を予定していた淳西小ほか3校について、国の追加事業を活用し27年度に前倒しで予算計上を行ったことにより、早期発注・完成につながった。 ・27年度末時点で、改修予定16校のうち4校が改修済みとなっている。 (4) 学校施設の老朽化対策等の推進 ・29年度以後の整備計画に向けて方向性を定めることができた。 ・各種の法定点検や調査結果等に基づき、緊急を要するものについては概ね必要な整備を行うことができた。 (5) 小規模小学校の在り方についての検討 ・アンケートは5つの小学校区から34～47%の回収率で回収することができた。 ・統合と存続がほぼ同数の学校もあるが、過半数が統合を望む学校が多い。 ・地域懇談会では地域ごとに率直な意見を聞くことができた。 (6) 就学援助、奨学金貸付事業、ふるさと人材育成・定住促進奨学金事業の利用推進 ①就学援助                      …認定割合は22%前後で推移している。 ②奨学金貸付事業              …応募者が減少傾向にある。 ③ふるさと人材育成・定住促進奨学金事業              …応募者が減少傾向にある。
課題及び今後の取組の方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他 (                      )  [具体的な課題及び取組] (1) いじめ等の課題の解決を図るための関係機関との連携 いじめ等の未然防止、早期発見、即時対応できるよう、今後も継続して各関係機関との連携を図っていききたい。 (2) 学校安全の推進 学校、地域、保護者、関係機関との連携を密にすることで、児童生徒の事故防止に努めていきたい。 (3) 学校施設の耐震化の推進 国の追加事業等を活用した事業の前倒しも視野に、早期の改修を進める。 (4) 学校施設の老朽化対策等の推進 今後、大規模な改修時期を迎える校舎等が増加することから、財源の確保が課題となる。 (5) 小規模小学校の在り方についての検討 能代市小規模小学校の在り方協議会を設置し、協議会での提言を踏まえ、能代市教育委員会は小規模小学校の在り方について基本方針を定める。



	<p>(6) 就学援助、奨学金貸付事業、ふるさと人材育成・定住促進奨学金事業の利用推進</p> <p>①就学援助 引き続き、利用推進を図る。</p> <p>②奨学金貸付事業、ふるさと人材育成・定住促進奨学金事業 利用推進に向けて取り組むと同時に、今後のあり方について検討が必要である。</p>
<p>学 識 経 験 者 の 意 見</p>	<p>○小規模小学校の在り方に関しては、地域住民の理解を得ながら、慎重に進めていただきたい。統合がやむを得ない場合には、そのメリットが大きくなるようにするとともに、通学等のデメリットを小さくし、学校が地域全体の核となるような取組を工夫していただきたい。</p> <p>○奨学金事業を活用しながら、地域に貴重な人材が戻ってくるように努めていただきたい。</p> <p>□関係機関と連携して通学路の点検・改善を行ったり、スクールガードリーダー養成研修会を開催して研修を深めたりするなど、学校生活における児童生徒の事故発生ゼロを目指した取組が行われている。</p> <p>□学校施設の耐震化については、国の追加事業を活用し、前倒しで予算計上を行うことにより、早期発注・完成につなげている。今後も、改修予定となっている学校施設については、計画的に工事を進めてほしい。</p> <p>□小規模小学校（5校）の今後の在り方について、関係学区内の住民を対象としたアンケートを実施するとともに、地域懇談会を開催して住民から率直な意見を聴取した。平成28年度に設置され、協議が進められている「在り方協議会」では、各地域の実態等を考慮しながらも、「児童にとって良好な学習環境とは何か」という視点を最優先にした話し合いを行い、そこでの提言を踏まえて基本方針を作成したいものである。</p> <p>□奨学金貸付事業、ふるさと人材育成・定住促進奨学金事業については、引き続き事業の周知に努め、利用推進を図りたい。</p>

【 生涯学習・スポーツ振興課 】

基本目標	2 より心豊かで生き生きとした暮らしにつながる学びの場づくりの推進
施策項目	① 学習の成果を地域に生かす取組の推進
方針・目標	市民の学習意欲を高められるよう学習環境の整備とともに、学びの成果を地域に生かすことができるよう生涯学習諸施策の充実を図ります。
事業・取組名	生涯学習推進事業
目標値	市民意識調査「学んだ知識や特技を地区活動や行事で発揮することを心がけている市民の割合」30%を目指します。
前年度項目	3 社会教育 (1) 生涯学習推進・社会教育振興
前年度の意見と対応	第2次能代市社会教育振興中期計画に基づく実施事業数とボランティア登録者数が目標値を上回っていることについて ⇒社会教育委員の意見や社会教育指導員の指導のもと、改善を重ねながら、目標をさらに上回るよう工夫していきます。
事務事業の実績	<p>1 生涯学習推進体制</p> <p>(1) 生涯学習推進本部（市長が本部長、各部長が本部員）</p> <p>(2) 生涯学習推進協議会（12人）</p> <p>(3) 生涯学習奨励員（26人）</p> <p>(4) 社会教育指導員（1人）</p> <p>2 情報提供</p> <p>(1) 生涯学習関連事業の作成（社会教育委員等へ配布）</p> <p>(2) 広報のしろへの「生涯学習のしろ」掲載（年2回）</p> <p>(3) ホームページによる情報提供（随時）</p> <p>3 学習環境</p> <p>(1) 出前講座のPR（利用件数 117団体 延べ4,255人受講）</p> <p>4 人材の活用・育成</p> <p>(1) 生涯学習奨励員の活動促進</p> <p>ア 放課後子ども教室での活動（絵手紙教室講師等）</p> <p>イ マナブゥ市での交流（昔あそび、手芸等）</p> <p>ウ 小学生による職場見学の引率</p> <p>(2) 生涯学習ボランティアの活用</p> <p>ア 正課クラブ（崇徳小・お茶）</p> <p>イ ふるさと学習（淳城南小・郷土料理の伝承）</p> <p>(3) 図書館ボランティアの育成（15人参加）</p> <p>ア 読み聞かせや書架整理作業のスキルアップ</p>

点検・評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る  [説明] ① H27 年度 市民意識調査「学んだ知識や特技を地区活動や行事で発揮することを心がけている市民の割合」 →16.3%（前年度 17.4%） ②第2次能代市社会教育振興中期計画に基づく実施事業数 →87項目（前年度 85項目） ③生涯学習ボランティア登録者数 →53人（前年度 53人） ④出前講座受講者数 →延べ4,255人（前年度 3,039人） ⑤生涯学習奨励員による子ども達との関わりが増え、学んだことを教える側、教わる側、双方にとってよい効果をもたらしている。 ⑥生涯学習ボランティア活動として行われた地元婦人会によるふるさと学習は、郷土料理の伝承という意義深い内容であり、ふるさと能代を学ぶ良い機会であった。
課題及び今後の取組の方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他（                      ）  [具体的な課題及び取組] ①人材の活用・育成 ・生涯学習奨励員や生涯学習ボランティアの学んだ知識や特技を地区活動等で発揮することができるよう、研修会等で意識づけを図る。 ・生涯学習奨励員等が活動しやすい環境づくりに努める。（放課後子ども教室や公民館講座、社会教育施設ボランティア等） ②新規人材の掘り起こし ・潜在する人材が活躍できるよう、放課後子ども教室等の事業を通して新たな人材の掘り起こしに努める。 ③情報提供の強化 ・新聞、フリーペーパー等の活用により、講座情報の周知拡大を図る。
学識経験者の意見	○実施事業数が増え、出前講座受講者数も大きく伸びている。市民意識調査の割合が減っている理由は、回答者の傾向違いによるものであるかもしれず、一概に低下していると判断することは難しいように思われる。むしろ、受講者へのアンケート等で判断した方がよいようにも思える。 ○人材の活用・育成、新規人材の掘り起こしは急務であり、計画的かつ積極的に取り組んでいただきたい。 <input type="checkbox"/> 第2次能代市社会教育振興中期計画（平成25年度～29年度）に基づく実施事業数が87項目、生涯学習ボランティアの登録者数が53人と、前年度よりやや増か同数となっている。 <input type="checkbox"/> 出前講座受講者数は、延べ4,255人と前年度よりも大きく増えている。今後とも、PR活動を進め、さらなる周知に努めてほしい。 <input type="checkbox"/> 広報のしるに「生涯学習のしる」を掲載したり、ホームページを活用して随時、情報を発信したりするなど、生涯学習関連の事業の周知に努めている。 <input type="checkbox"/> 生涯学習奨励員や生涯学習ボランティアが、いろいろな活動や研修を通して学んだ知識や特技を、地区活動や放課後子ども教室、公民館講座等において発揮できるような仕組みを構築されたい。

基本目標	2 より心豊かで生き生きとした暮らしにつながる学びの場づくりの推進																																																																																																								
施策項目	② 市民ニーズや地域課題に対応した多様な学習機会の提供と充実																																																																																																								
方針・目標	各種の講座を企画・運営し、少子高齢化や価値観の多様化等に対応した学習機会の提供に努めます。																																																																																																								
事業・取組名	公民館活動事業 勤労青少年ホーム活動事業 働く婦人の家活動事業																																																																																																								
目標値	講座数及び参加者数の過去3年間の平均値との比較で、同等あるいは上回ります。																																																																																																								
前年度項目	3 社会教育 (3) 生活や地域における課題解決のための学習機会の提供																																																																																																								
前年度の意見と対応	<p>①利用者数増に向けた新たな方策及び指標の検討 ⇒人口減少率等を加味した目標の設定及び満足度等の指標化の検討をします。</p> <p>②市民要望をもとにした講座内容等の検討 ⇒アンケート調査等により把握した市民ニーズを反映した講座を開設します。</p> <p>③多様な方法による講座の周知 ⇒指定管理者と連携し、広報やホームページ等を活用して情報提供に努めます。</p>																																																																																																								
事務事業の実績	<p>1 中央公民館開設講座・事業数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>講座数</th> <th>回数</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H27</td> <td>35講座</td> <td>189回</td> <td>10,742人</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>35講座</td> <td>186回</td> <td>11,006人</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>36講座</td> <td>205回</td> <td>10,435人</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>39講座</td> <td>219回</td> <td>11,110人</td> </tr> <tr> <td>H24～26平均</td> <td>37講座</td> <td>203回</td> <td>10,850人</td> </tr> <tr> <td>3カ年平均との比較</td> <td>△2講座</td> <td>△14回</td> <td>△108人</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 中央公民館・地区公民館等開催講座内訳（数値は延べ数）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分野</th> <th>おもな事業内容</th> <th>対象</th> <th>回数</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">家庭教育 (幼児教育)</td> <td>親子体験活動</td> <td>年長児と保護者</td> <td>4</td> <td>64人</td> </tr> <tr> <td>食育体験学習</td> <td>年長児～小学3年</td> <td>4</td> <td>36人</td> </tr> <tr> <td>保護者の学習</td> <td>保護者</td> <td>5</td> <td>177人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">少年教育</td> <td>体験活動・異年齢交流</td> <td>小学3・4年</td> <td>4</td> <td>43人</td> </tr> <tr> <td>体験活動(地区)</td> <td>地区小学生</td> <td>3</td> <td>136人</td> </tr> <tr> <td>青年教育</td> <td>ボランティア育成</td> <td>高校生</td> <td>6</td> <td>91人</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">成人教育</td> <td>テーマに沿った課題学習</td> <td>一般成人</td> <td>6</td> <td>94人</td> </tr> <tr> <td>集合学習(市民学校)</td> <td>一般成人</td> <td>60</td> <td>831人</td> </tr> <tr> <td>働く婦人の家主催講座</td> <td>一般成人</td> <td>10</td> <td>130人</td> </tr> <tr> <td>勤労青少年ホーム主催講座</td> <td>一般成人</td> <td>5</td> <td>48人</td> </tr> <tr> <td>高齢者教育</td> <td>集合学習(寿大学)</td> <td>高齢者</td> <td>57</td> <td>2,803人</td> </tr> <tr> <td>文化活動</td> <td>公民館祭・文化祭</td> <td>—</td> <td>21</td> <td>5,837人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">コミュニティ活動</td> <td>地域づくり講演会</td> <td>一般成人</td> <td>3</td> <td>422人</td> </tr> <tr> <td>地域交流(地区)</td> <td>一般成人</td> <td>1</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td colspan="3">合 計</td> <td>189</td> <td>10,742</td> </tr> </tbody> </table>				年度	講座数	回数	参加者数	H27	35講座	189回	10,742人	H26	35講座	186回	11,006人	H25	36講座	205回	10,435人	H24	39講座	219回	11,110人	H24～26平均	37講座	203回	10,850人	3カ年平均との比較	△2講座	△14回	△108人	分野	おもな事業内容	対象	回数	参加者数	家庭教育 (幼児教育)	親子体験活動	年長児と保護者	4	64人	食育体験学習	年長児～小学3年	4	36人	保護者の学習	保護者	5	177人	少年教育	体験活動・異年齢交流	小学3・4年	4	43人	体験活動(地区)	地区小学生	3	136人	青年教育	ボランティア育成	高校生	6	91人	成人教育	テーマに沿った課題学習	一般成人	6	94人	集合学習(市民学校)	一般成人	60	831人	働く婦人の家主催講座	一般成人	10	130人	勤労青少年ホーム主催講座	一般成人	5	48人	高齢者教育	集合学習(寿大学)	高齢者	57	2,803人	文化活動	公民館祭・文化祭	—	21	5,837人	コミュニティ活動	地域づくり講演会	一般成人	3	422人	地域交流(地区)	一般成人	1	30人	合 計			189	10,742
年度	講座数	回数	参加者数																																																																																																						
H27	35講座	189回	10,742人																																																																																																						
H26	35講座	186回	11,006人																																																																																																						
H25	36講座	205回	10,435人																																																																																																						
H24	39講座	219回	11,110人																																																																																																						
H24～26平均	37講座	203回	10,850人																																																																																																						
3カ年平均との比較	△2講座	△14回	△108人																																																																																																						
分野	おもな事業内容	対象	回数	参加者数																																																																																																					
家庭教育 (幼児教育)	親子体験活動	年長児と保護者	4	64人																																																																																																					
	食育体験学習	年長児～小学3年	4	36人																																																																																																					
	保護者の学習	保護者	5	177人																																																																																																					
少年教育	体験活動・異年齢交流	小学3・4年	4	43人																																																																																																					
	体験活動(地区)	地区小学生	3	136人																																																																																																					
青年教育	ボランティア育成	高校生	6	91人																																																																																																					
成人教育	テーマに沿った課題学習	一般成人	6	94人																																																																																																					
	集合学習(市民学校)	一般成人	60	831人																																																																																																					
	働く婦人の家主催講座	一般成人	10	130人																																																																																																					
	勤労青少年ホーム主催講座	一般成人	5	48人																																																																																																					
高齢者教育	集合学習(寿大学)	高齢者	57	2,803人																																																																																																					
文化活動	公民館祭・文化祭	—	21	5,837人																																																																																																					
コミュニティ活動	地域づくり講演会	一般成人	3	422人																																																																																																					
	地域交流(地区)	一般成人	1	30人																																																																																																					
合 計			189	10,742																																																																																																					

点検・評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input checked="" type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る  [説明] ①公民館の講座等については、過去3年間の平均値との比較で、講座数、回数、参加者数は平均値には達しなかったものの、数値自体は昨年度並みを維持している。 ②要望に応じ、勤労青少年ホーム、働く婦人の家講座の講座数を増やした。 ③フェイスブック等のSNSを活用し、情報提供をした。
課題及び今後の取組の方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他（                      ）  [具体的な課題及び取組] 1 市民のニーズにあった講座等の開設 ①アンケート等による市民ニーズの把握に努める。 ・「地元探訪まち歩き」講座での目的地に反映予定 ・「知っ得講座」を要望のあった内容で実施予定 ・要望のあった小学校高学年を対象とした料理講座を実施予定 ・参加者の満足度を数値化できるような設問設定を検討 ②講座へ参加しやすい時間帯の設定や、他行事と重ならないような日程調整を行う。 2 多様な手法による情報提供 ①広報やホームページの活用のほか、より広範なポスター掲示やチラシ配布を行う。 ②SNSを活用した情報提供を行う。 3 指定管理者等との連携 ①指定管理者との月例打ち合わせ時における情報交換を密にする。 ②中央公民館・地区館の事業担当者間の情報交換の場を新たに設定〔(仮称)能代市公民館長会議〕する。
学識経験者の意見	○高齢化、人口減少の中では数値の低下は致し方ないところであり、ある程度は年度毎の揺らぎの範囲にとらえることも可能である。今後とも、ニーズの把握等、改善に努めていただきたい。 <input type="checkbox"/> 中央公民館の開設講座数、回数、参加者数は、過去3年間の平均値には達しなかったものの、ほぼ同数を維持できている。今後は引き続き、アンケート等によって市民のニーズを把握し、開設講座の内容や時間帯などについて検討して欲しい。 <input type="checkbox"/> 指定管理者との連携を密にするとともに、中央公民館と地区公民館の事業担当者間の情報交換の場の確保に努めてほしい。

基本目標	2 より心豊かで生き生きとした暮らしにつながる学びの場づくりの推進																																																																													
施策項目	③ 学習を通じた生きがいづくり、仲間づくりの支援																																																																													
方針・目標	①自主学習グループ等の自主的な活動を支援し、学習成果の発表の場及び交流の場の確保・提供に努めます。 ②高齢者の生活環境の変化や多様化する学習要求に応えます。																																																																													
事業・取組名	公民館活動事業 青少年ホーム活動事業 働く婦人の家活動事業																																																																													
目標値	①自主学習グループ・勤労青少年ホーム利用者連絡協議会・働く婦人の家利用グループ登録団体数が過去3年間の平均値との比較で、同等あるいは上回ります。 ②寿大学の参加者数が、過去3年間の平均値との比較で、同等あるいは上回ります。																																																																													
前年度項目	3 社会教育 (3) 生活や地域における課題解決のための学習機会の提供																																																																													
前年度の意見と対応	—																																																																													
事務事業の実績	<p>1 自主学習グループ登録団体数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>グループ数</th> <th>人数</th> <th>男</th> <th>女</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H27</td> <td>231団体</td> <td>3,467人</td> <td>1,115人</td> <td>2,352人</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>239団体</td> <td>3,523人</td> <td>1,123人</td> <td>2,400人</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>247団体</td> <td>3,736人</td> <td>1,194人</td> <td>2,542人</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>250団体</td> <td>3,849人</td> <td>1,206人</td> <td>2,643人</td> </tr> <tr> <td>H24～26平均</td> <td>245団体</td> <td>3,702人</td> <td>1,174人</td> <td>2,528人</td> </tr> <tr> <td>3カ年平均との比較</td> <td>△14団体</td> <td>△235人</td> <td>△59人</td> <td>△176人</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 勤労青少年ホーム利用者連絡協議会登録者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>利用グループ数</th> <th>登録人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H27</td> <td>11団体</td> <td>54人</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>11団体</td> <td>71人</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>12団体</td> <td>71人</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>13団体</td> <td>89人</td> </tr> <tr> <td>H24～26平均</td> <td>12団体</td> <td>77人</td> </tr> <tr> <td>3カ年平均との比較</td> <td>△1団体</td> <td>△23人</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 働く婦人の家利用グループ登録団体数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>利用グループ数</th> <th>登録人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H27</td> <td>63団体</td> <td>589人</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>64団体</td> <td>602人</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>64団体</td> <td>633人</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>61団体</td> <td>717人</td> </tr> <tr> <td>H24～26平均</td> <td>63団体</td> <td>651人</td> </tr> <tr> <td>3カ年平均との比較</td> <td>±0</td> <td>△62人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	グループ数	人数	男	女	H27	231団体	3,467人	1,115人	2,352人	H26	239団体	3,523人	1,123人	2,400人	H25	247団体	3,736人	1,194人	2,542人	H24	250団体	3,849人	1,206人	2,643人	H24～26平均	245団体	3,702人	1,174人	2,528人	3カ年平均との比較	△14団体	△235人	△59人	△176人	年度	利用グループ数	登録人数	H27	11団体	54人	H26	11団体	71人	H25	12団体	71人	H24	13団体	89人	H24～26平均	12団体	77人	3カ年平均との比較	△1団体	△23人	年度	利用グループ数	登録人数	H27	63団体	589人	H26	64団体	602人	H25	64団体	633人	H24	61団体	717人	H24～26平均	63団体	651人	3カ年平均との比較	±0	△62人
年度	グループ数	人数	男	女																																																																										
H27	231団体	3,467人	1,115人	2,352人																																																																										
H26	239団体	3,523人	1,123人	2,400人																																																																										
H25	247団体	3,736人	1,194人	2,542人																																																																										
H24	250団体	3,849人	1,206人	2,643人																																																																										
H24～26平均	245団体	3,702人	1,174人	2,528人																																																																										
3カ年平均との比較	△14団体	△235人	△59人	△176人																																																																										
年度	利用グループ数	登録人数																																																																												
H27	11団体	54人																																																																												
H26	11団体	71人																																																																												
H25	12団体	71人																																																																												
H24	13団体	89人																																																																												
H24～26平均	12団体	77人																																																																												
3カ年平均との比較	△1団体	△23人																																																																												
年度	利用グループ数	登録人数																																																																												
H27	63団体	589人																																																																												
H26	64団体	602人																																																																												
H25	64団体	633人																																																																												
H24	61団体	717人																																																																												
H24～26平均	63団体	651人																																																																												
3カ年平均との比較	±0	△62人																																																																												

	<p>4 寿大学参加者数</p> <table border="1" data-bbox="464 210 1129 533"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>回数</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H27</td> <td>57回</td> <td>2,803人</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>56回</td> <td>2,672人</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>59回</td> <td>3,044人</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>59回</td> <td>2,812人</td> </tr> <tr> <td>H24～26平均</td> <td>58回</td> <td>2,843人</td> </tr> <tr> <td>3カ年平均との比較</td> <td>△1回</td> <td>△40人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	回数	参加者数	H27	57回	2,803人	H26	56回	2,672人	H25	59回	3,044人	H24	59回	2,812人	H24～26平均	58回	2,843人	3カ年平均との比較	△1回	△40人
年度	回数	参加者数																				
H27	57回	2,803人																				
H26	56回	2,672人																				
H25	59回	3,044人																				
H24	59回	2,812人																				
H24～26平均	58回	2,843人																				
3カ年平均との比較	△1回	△40人																				
<p>点検・評価</p>	<p> <input type="checkbox"/>目標を上回る      <input type="checkbox"/>ほぼ目標どおり      <input checked="" type="checkbox"/>目標をやや下回る  <input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る </p> <p>[説明]</p> <p>①自主学習グループ等の登録団体については、団体数、登録人数とも減少傾向であるが、団体数に比べ登録人数の落ち込みが大きくなっている。</p> <p>②寿大学参加者数は、目標値をやや下回ったが、前年度よりは増加している。</p>																					
<p>課題及び今後の取組の方向性</p>	<p> <input type="checkbox"/>拡充      <input checked="" type="checkbox"/>継続      <input type="checkbox"/>廃止検討      <input type="checkbox"/>その他（                      ） </p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <p>アンケート等による市民ニーズの把握やオープン学習会の奨励など、指定管理者との連携により自主学習グループ等を支援します。</p>																					
<p>学識経験者の意見</p>	<p>○高齢化や人口減少が進む中では数値の増加は難しくなっている。低下の度合いを少しでも少なくするためにどのような方策が必要であるのかについて検討していただきたい。</p> <p>□自主学習グループの登録団体数及び登録人数、及び勤労青少年ホームと働く婦人の家の利用グループの登録人数が減少傾向にある。指定管理者と連携しながら、これらの団体やグループに対する支援の在り方について検討してほしい。</p> <p>□寿大学の参加者数が前年度を上回り、過去3年間の平均値と同等となった。アンケート等で市民のニーズを把握し、要望に応えられるような学習内容を取り入れたことがその要因の一つと思う。</p>																					

基本目標	2 より心豊かで生き生きとした暮らしにつながる学びの場づくりの推進
施策項目	④ 社会教育施設等の適切な運営による、より良い学習環境の充実
方針・目標	① 指定管理者と連携を図ります。 ② 計画的な設備の修繕を行います。
事業・取組名	公民館管理運営事業 勤労青少年ホーム活動事業 働く婦人の家活動事業
目標値	①指定管理者との打ち合わせを、毎月実施します。 ②学習環境の向上のため、計画的に施設・設備の修繕を実施します。
前年度項目	3 社会教育 (3) 生活や地域における課題解決のための学習機会の提供
前年度の意見と対応	－
事務事業の実績	1 指定管理者との情報交換 月一回の打ち合わせを実施した。 2 施設・設備改修 ア 中央公民館 冷暖房用ファンコイル、配管改修（設計・監理含む） 23,842千円 イ ニツ井公民館 非常用電源装置改修 5,724千円 耐震補強改修 16,356千円 ウ 文化会館 ・冷暖房用ファンコイル、配管改修（設計・監理含む） 5,961千円 ・受水槽取替工事実施設計業務委託 864千円
点検・評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る [説明] ①中央公民館等4館（文化会館、青少年ホーム、働く婦人の家）では、指定管理者制度の導入に伴う施設の利用受付等の拡充により、利便性の向上が図られた。 ②指定管理者との月例打ち合わせで、事業の拡充、基本協定での修繕金額変更など、利用者の利便性向上に向けた協議がなされた。 ③施設・設備の改修を計画どおりに進行できず、不時対応となるケースも増加している。
課題及び今後の取組の方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他（ ） [具体的な課題及び取組] ①指定管理者等との連携 ・指定管理者との月例打ち合わせ時における情報交換を密にする。 ・ニツ井公民館及びニツ井分館については、平成29年度からの指定管理に向け作業を進める。 ・中央公民館・地区館の事業担当者間の情報交換の場を新たに設定〔(仮称)能代市公民館長会議〕する。



	<p>②利用者ニーズの把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、実施しているアンケートの質問内容を再検討し、利用者ニーズの的確な把握に努めます。</li> </ul>
学識経験者の意見	<p>○施設・設備の改修・修繕等には多額の費用がかかることから、点検等を行い、計画的な整備をお願いしたい。</p> <p>□指定管理者との月例打合せなど連携した取組が継続して行われており、施設の利用受付等の拡充や事業そのものの拡充がなされ、利便性の向上が図られている。</p> <p>□これまでの指定管理者制度から得たノウハウを、来年度から導入予定の二ツ井公民館及び二ツ井分館の管理運営に反映させてほしい。</p>

基本目標	2 より心豊かで生き生きとした暮らしにつながる学びの場づくりの推進																														
施策項目	④ 社会教育施設等の適切な運営による、より良い学習環境の充実																														
方針・目標	市民の学習要求に応えるため、必要な資料を広く収集・整理・提供するとともに、生涯学習や生活に役立ち、利用しやすい図書館となるよう努めます。 また、読書活動を推進するため、学校や地域との連携を強化するとともに、各種講座、行事などの事業を展開し、利用者拡大に努めます。																														
事業・取組名	図書館管理運営事業																														
目標値	快適な読書環境を提供し、より多くの住民に利用されるよう、毎年実施する利用者満足度調査の評価が、5段階中4ポイント以上を目指します。																														
前年度項目	3 社会教育 (5) 図書館サービスの充実																														
前年度の意見と対応	①図書館利用の増進に向けた取組の継続と他部局との更なる連携強化 ⇒利用者増加の取組や魅力的な事業展開のため、各種団体や他部局との連携強化に努めます。 ②学校との連携による子どもの読書活動の充実 ⇒子ども読書活動推進計画に基づき、学校と連携し、読書活動の活性化に繋がる取組を継続していきます。 ③利用者ニーズを把握した図書館運営 ⇒利用者ニーズを把握しながら、読書振興に繋がる取組を進めるとともに、他図書館や関係機関、指定管理者と連携し運営していきます。																														
事務事業の実績	1 図書館資料の充実 (1) 蔵書数 <table border="1" data-bbox="454 1108 1252 1243"> <thead> <tr> <th>年度/項目</th> <th>一般書</th> <th>郷土</th> <th>児童書</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H27</td> <td>122,679 冊</td> <td>14,691 冊</td> <td>35,869 冊</td> <td>173,239 冊</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>120,964 冊</td> <td>14,475 冊</td> <td>35,115 冊</td> <td>170,554 冊</td> </tr> </tbody> </table> (2) 特色ある蔵書づくり 「木に関するコーナー」 H27 1,722 冊 / H26 1,704 冊 「宇宙コーナー」 H27 705 冊 / H26 705 冊 (入替有り) 「家読(うちどく)コーナー」 家読ノートに掲載のお薦めの本等を展示  (3) 雑誌スポンサー制度 (H26年4月導入) H27 スポンサー数 15 件 / 雑誌 18 誌 H26 スポンサー数 5 件 / 雑誌 8 誌  2 サービス活動の充実と利用の拡大 (1) 貸出冊数、来館者数 <table border="1" data-bbox="454 1758 1380 1892"> <thead> <tr> <th>年度/項目</th> <th>個人貸出</th> <th>団体貸出</th> <th>合計</th> <th>来館者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H27</td> <td>162,258 冊</td> <td>18,945 冊</td> <td>181,203 冊</td> <td>114,806 人</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>147,829 冊</td> <td>10,203 冊</td> <td>158,032 冊</td> <td>90,115 人</td> </tr> </tbody> </table> (H26.5月カウンター設置)	年度/項目	一般書	郷土	児童書	合計	H27	122,679 冊	14,691 冊	35,869 冊	173,239 冊	H26	120,964 冊	14,475 冊	35,115 冊	170,554 冊	年度/項目	個人貸出	団体貸出	合計	来館者数	H27	162,258 冊	18,945 冊	181,203 冊	114,806 人	H26	147,829 冊	10,203 冊	158,032 冊	90,115 人
年度/項目	一般書	郷土	児童書	合計																											
H27	122,679 冊	14,691 冊	35,869 冊	173,239 冊																											
H26	120,964 冊	14,475 冊	35,115 冊	170,554 冊																											
年度/項目	個人貸出	団体貸出	合計	来館者数																											
H27	162,258 冊	18,945 冊	181,203 冊	114,806 人																											
H26	147,829 冊	10,203 冊	158,032 冊	90,115 人																											

(2) その他統計

	(H27)	(H26)
ア レファレンス・サービス（参考調査）、読書案内	7,549 件	2,245 件
イ リクエスト（予約）サービス	6,961 冊	5,852 冊
ウ 障がい者サービス（家庭配本）	155 冊	135 冊
エ 県立図書館等公共図書館との相互協力	借受 749 冊 貸出 629 冊	611 冊 613 冊
オ ホームページの整備と管理	アクセス数 24,766 件	31,641 件

(3) 市や社会教育施設等との連携

- ア 「子育て・家庭教育に関する本」の貸出  
保育所向け・小学校向け・中学校向けの本3セット（1セット15冊）を、  
希望のあった施設へ設置（生涯学習・スポーツ振興課）
- イ 男女共同参画関連図書の展示、貸出（6月／市民活力推進課）
- ウ 育児関係本や絵本の配本（毎月3歳児検診／健康づくり課）
- エ 「どの本読もうかな」（読み聞かせおすすめ絵本の紹介）の配布  
（年3回／健康づくり課）

(4) 学習機会の提供※1

年度／項目	講座等の開催		人形劇、書評合戦等の開催	
H27	4回	77人	11回	543人
H26	1回	38人	3回	140人

(5) テーマ展示の充実等

- 特色ある月替わりのテーマ展示やおみくじ等を実施。
- ア としょかんおみくじ（大人用262枚／子ども用90枚を配布）
- イ 子育て支援関連コーナーの設置
- ウ としょかん福袋（年末 大人用10袋／子ども用10袋）
- エ おやこわいわいルーム（H27 102人／H26 182人）
- オ 家読コーナーの貸出

(6) 開館時間の延長及び開館日の拡大

開館を午前9時から、閉館を午後7時とし、開館時間を2時間延長した。  
月曜日以外の祝日を開館とし、開館日を増やした。

3 子どもの読書活動の推進

(1) 読み聞かせ活動の充実および学校との連携・支援※2

年度/項目	おはなし会		出前おはなし会	
H27	28回	547人	4施設	67人
H26	25回	278人	3施設	72人

（読み聞かせはボランティアが担当）

- ・一日図書館員（小学校5年生） 2人
- ・学校図書館担当者研修会（市立図書館の事業説明） 33人
- ・学校への図書配本を実施 24回／1,301冊

	<p>(2) ボランティアとの連携  ※1 学習機会の提供、※2 読み聞かせ活動の充実および学校との連携・支援に記載</p> <p>4 指定管理者との連携による利用者サービスの向上  【利用者満足度調査】</p> <table border="1" data-bbox="432 405 1401 533"> <thead> <tr> <th></th> <th>回答者</th> <th>満足</th> <th>やや満足</th> <th>普通</th> <th>やや不満</th> <th>不満</th> <th>満足度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H27</td> <td>280 人</td> <td>113 人</td> <td>109 人</td> <td>51 人</td> <td>7 人</td> <td>0 人</td> <td>4.17</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>276 人</td> <td>133 人</td> <td>92 人</td> <td>46 人</td> <td>5 人</td> <td>0 人</td> <td>4.28</td> </tr> </tbody> </table> <p>※全体的な満足度データ  ※評価は5段階  「満足」5 「やや満足」4 「普通」3 「やや不満」2 「不満」1</p>		回答者	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	満足度	H27	280 人	113 人	109 人	51 人	7 人	0 人	4.17	H26	276 人	133 人	92 人	46 人	5 人	0 人	4.28
	回答者	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	満足度																		
H27	280 人	113 人	109 人	51 人	7 人	0 人	4.17																		
H26	276 人	133 人	92 人	46 人	5 人	0 人	4.28																		
<p>点検・評価</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 目標を上回る      <input type="checkbox"/> ほぼ目標どおり      <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る  <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る</p> <p>[説明]</p> <p>①平成27年度から、指定管理者制度を導入し、株式会社図書館流通センターが指定管理者となった。開館時間の延長や新規事業を実施し利用者及び利用冊数ともに増加が見られた。</p> <p>②図書館利用者満足度調査において、全体的にみた図書館に対する満足度（5点満点）は、27年度は4.17で、前年度と同程度であった。</p> <p>③木材高度加工研究所との連携展示や商店街ビブリアバトル等、他の施設や団体と連携した取組を進めた。</p>																								
<p>課題及び今後の取組の方向性</p>	<p><input type="checkbox"/> 拡充      <input checked="" type="checkbox"/> 継続      <input type="checkbox"/> 廃止検討      <input type="checkbox"/> その他（                      ）</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <p>①指定管理者との連携  今後も引き続き指定管理者と連携し、施設の円滑な維持管理、運営を図りながら、事業を推進していく。</p> <p>②図書資料の充実  市民の学習要求に応えられるよう図書資料の充実を図る。</p> <p>③関係機関との連携  学校や家庭、関係機関との連携を図りながら、読書活動の充実に努める。</p>																								
<p>学識経験者の意見</p>	<p><input type="checkbox"/> 貸出数、来館者数、各種事業数等も大きく増えており、成果があがっている。満足度調査に答えている回答者約280人の属性（選ばれ方）がわからないが、満足度があがっていないことが不思議である。</p> <p><input type="checkbox"/> 指定管理者制度の導入を機に、開館時間を2時間延長したことや開館日を増やしたこと等によって、貸出冊数や来館者数が前年度よりも大幅に伸びた。</p> <p><input type="checkbox"/> 講座や人形劇・書評合戦等の開催回数を増やしたことによって、これまで以上に多くの市民に対し、学習機会を提供している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの読書活動を推進するために、おはなし会や出前おはなし会を開催したり、1日図書館員の委嘱や学校への図書の配本を実施したりするなど、さまざまな取組が見られる。</p> <p><input type="checkbox"/> 利用者満足度調査の結果（4.17）は目標値を上回るもので、良好である。今後とも、市民の読書に関するニーズを把握しながら、一人でも多くの人々が本に親しみ、読書を楽しめるような図書館運営を目指してほしい。</p>																								

【生涯学習・スポーツ振興課】

基本目標	3 学校・家庭・地域・行政等が一体となった、次代を生きる子どもたちを育むまちづくりの推進
施策項目	① 学校・家庭・地域の連携協力の推進
方針・目標	自分が住む地域への理解を深め、「ふるさと能代」に愛着をもった子どもたちを育成するため、能代の地域全体を学びの場とした体験活動を中心に事業を推進します。
事業・取組名	のしろDEマナブゥ事業
目標値	市民意識調査の「子どもが地区でのびのびと育っていると思う市民の割合」60%を目指します。
前年度項目	3 社会教育 (1) 生涯学習推進・社会教育振興
前年度の意見と対応	①小学校との連携強化、中学校、高等学校、特別支援学校等との連携 ⇒個々の事業において連携し実施しています。 ②多くの市民の参加と、子どもたちの頑張りを知ってもらうための工夫 ⇒子ども達に「マナブゥ」が定着し、参加する子どもが増えてきています。今後は、市民の関心をさらに喚起し、学校・地域・家庭主導の取組へと広げていける企画や積極的な情報提供を行っていきます。
事務事業の実績	(1) 講座の実施回数及び参加人数 49 講座 576 人参加 (前年度：39 講座 557 人参加) (2) マナブゥ・イベントの実施 ミニマナブゥ市の開催 (5/31 開催) マナブゥ市の開催 (10/10 開催 延べ 411 人参加、前年度 471 人) ふるさと学習交流会の開催 (学校教育課との共催) 郷土芸能発表 1 団体 (3) マナブゥ・カードの発行・配布 2,520 枚発行、1,355 枚配布 (4) のしろDEマナブゥ事業活動報告書の配布 (5) のしろDEマナブゥ事業推進会議の開催 (年 2 回) (6) 親子でのしろの宝さがし事業の企画 体験パンフレット「親子でのしろの宝さがし」の作成 WEB版の整備
点検・評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input checked="" type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る [説明] ①市民意識調査の「子どもが地区でのびのびと育っていると思う市民の割合」 →52.4% (前年度 52.6%) ②自分達がデザインしたキャラクターカードの発行、体験活動によるカードの受領により、子どもたちのマナブゥに対する関心が高まってきている。また、カードを媒介として、子どもの体験活動を主催している団体とも連携が生まれてきている。 ③公民館や子ども館、放課後子ども教室等の事業連携により講座数が増加した。 ④新たな体験活動 (ペットボトル風力発電機工作) を実施し、能代の自然について学んだ。 ⑤平成 24～26 年度の体験活動の実績をまとめた報告書を全小学校へ配布した。

<p>課題及び今後の取組の方向性</p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 拡充    <input type="checkbox"/> 継続    <input type="checkbox"/> 廃止検討    <input type="checkbox"/> その他 (                      ) </p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <p>①「親子でのしろの宝さがし」の事業展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業周知を図り、子どもたちに主体的な体験活動を促す。</li> <li>・親子参加に限らず、公民館事業等において子どものみでも参加できるような仕組みづくりを検討する。</li> </ul> <p>②学校・家庭・地域の連携強化</p> <p>家庭教育通信などへの掲載により事業周知を図る。</p> <p>③マナブゥ・カードの検討</p> <p>H24年度のマナブゥ・カードの発行から4年が経過しているため、カードの扱い等事業のあり方を検証する。</p>
<p>学識経験者の意見</p>	<p>○講座数、参加者数ともに増えており、成果があがっている。マナブゥ・カードやマナブゥ事業等について、子どもの意見を聞くためのアンケート等を行い、改善に努めていただきたい。</p> <p>□講座の実施回数及び参加人数とも前年度を上回った。公民館や子ども館、放課後子ども教室等の事業と連携した講座が増えたことが、その要因となっている。</p> <p>□「のしろDEマナブゥ事業」は本格実施から4年目を迎え、「マナブゥ・イベント」には多くの市民が参加した。「ふるさと学習交流会」では、郷土芸能の発表の場を設けるなど、伝統文化の継承を目指した取組も見られる。</p> <p>□これまでの3年間（平成24年度～26年度）の体験活動の実績をまとめた報告書「のしろDEマナブゥ事業活動報告書」を作成し、全小学校に配布するなど、事業がやりっ放しでなく、今後も成長していけるような取組になっている。</p>

【 生涯学習・スポーツ振興課 】

基本目標	3 学校・家庭・地域・行政等が一体となった、次代を生きる子どもたちを育むまちづくりの推進																																																
施策項目	① 学校・家庭・地域の連携協力の推進																																																
方針・目標	学校・家庭・地域・行政等が協働で、体験活動や見守りなど、子どもを育てる環境づくりに取り組みます。																																																
事業・取組名	放課後子ども教室推進事業																																																
目標値	週末体験活動の実施回数を各校、年5回を目指します。																																																
前年度項目	3 社会教育 (1) 生涯学習推進・社会教育振興																																																
前年度の意見と対応	①小学校との連携強化、中学校、高等学校、特別支援学校等との連携 ⇒個々の事業において連携し実施しています。 ②放課後子ども教室体験活動の充実 ⇒能代らしい体験活動を提供し、心豊かでたくましい子どもを地域全体で育ていくための事業を展開しています。																																																
事務事業の実績	<p>(1) 参加者数等の推移 (人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">27年度</th> <th colspan="3">26年度</th> </tr> <tr> <th>学校数</th> <th>日数</th> <th>参加者数</th> <th>学校数</th> <th>日数</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平日図書室等開放</td> <td>7</td> <td>1,349</td> <td>26,667</td> <td>7</td> <td>1,353</td> <td>25,289</td> </tr> <tr> <td>土曜日体育館開放</td> <td>5</td> <td>134</td> <td>2,015</td> <td>5</td> <td>123</td> <td>1,607</td> </tr> <tr> <td>夏休みプール開放</td> <td>12</td> <td>200</td> <td>9,265</td> <td>12</td> <td>176</td> <td>6,561</td> </tr> <tr> <td>週末体験活動</td> <td>12</td> <td>55</td> <td>1,123</td> <td>12</td> <td>49</td> <td>986</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>1,738</td> <td>39,070</td> <td></td> <td>1,701</td> <td>34,443</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 週末体験活動の主な活動実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親子でカヌー (淳城西小)</li> <li>・米代川探検 (第四小)</li> <li>・稲荷神社を学ぶ (向能代小)</li> <li>・囲碁教室 (竹生小)</li> <li>・能代港クルーズ (鶴形小)</li> <li>・科学実験 (常盤小)</li> <li>・七座山登山 (淳城南小)</li> <li>・木工作 (第五小)</li> <li>・絵手紙 (朴瀬小)</li> <li>・納豆まつり (崇徳小)</li> <li>・お茶摘み (浅内小)</li> <li>・白神山地を学ぶ (二ツ井小)</li> </ul> <p>実施回数 6回 (1校)、5回 (6校)、4回 (4校)、3回 (1校)</p>		27年度			26年度			学校数	日数	参加者数	学校数	日数	参加者数	平日図書室等開放	7	1,349	26,667	7	1,353	25,289	土曜日体育館開放	5	134	2,015	5	123	1,607	夏休みプール開放	12	200	9,265	12	176	6,561	週末体験活動	12	55	1,123	12	49	986	合計		1,738	39,070		1,701	34,443
	27年度			26年度																																													
	学校数	日数	参加者数	学校数	日数	参加者数																																											
平日図書室等開放	7	1,349	26,667	7	1,353	25,289																																											
土曜日体育館開放	5	134	2,015	5	123	1,607																																											
夏休みプール開放	12	200	9,265	12	176	6,561																																											
週末体験活動	12	55	1,123	12	49	986																																											
合計		1,738	39,070		1,701	34,443																																											
点検・評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る <p>[説明]</p> <p>①講師に地域の方々をお願いし、地域で子ども達を育てるという意識の醸成を図った。</p> <p>②ふるさと能代を学ぶ体験だけではなく、子ども達が楽しみながら学べるメニューを提供した。</p> <p>③スポ少や習い事のため参加できない児童がいるが、実施日を土曜日に拘らず、日曜日にも開催するなど、参加しやすいようにした。</p> <p>④実施回数は平均4.6回であり、ほぼ目標どおりである。引き続き、全ての学校において目標を達成できる取組が必要である。</p>																																																

<p>課題及び 今後の取組の 方向性</p>	<p><input type="checkbox"/>拡充    <input checked="" type="checkbox"/>継続    <input type="checkbox"/>廃止検討    <input type="checkbox"/>その他（                    ）</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <p>①学校・家庭・地域の連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの居場所づくり、体験活動を通じた心豊かで健やかに育まれる環境づくりのため、事業を継続。</li> <li>・地域の人財を掘り起こし、地域の宝として子どもを育てる意識の醸成を図る。</li> <li>・事業周知の改善により、参加者の拡大を図る。</li> </ul> <p>②放課後児童クラブ、スポ少等との連携強化</p> <p>放課後子ども総合プランにおける取組として、児童クラブと連携した平日の放課後子ども教室モデル事業を実施しながら、効果や課題を検証する。</p> <p>H28 モデル校一向能代小（囲碁教室年 10 回）、竹生小（読み聞かせ年 8 回）</p>
<p>学識経験者 の意見</p>	<p>○学校との連携も進み参加者数も増加しており、成果があがっている。今後とも安全安心に配慮しながら、多様で意義のある活動を工夫し、展開していただきたい。</p> <p><input type="checkbox"/>平日の図書室開放や土曜日の体育館開放、夏休み中のプール開放、週末の体験活動への参加者数がいずれも前年度よりも大幅に増えている。また、各小学校で地域の特色を生かした週末体験活動が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/>今後とも、地域の人材を活用するなどして教室に通ってくる児童に対し、充実した体験活動を提供できるような教室経営をお願いしたいものである。</p> <p><input type="checkbox"/>平成 28 年度モデル校において、放課後児童クラブやスポ少等との連携の在り方について先行実践が行われるとのことであり、その取組の成果に期待したい。</p>



基本目標	3 学校・家庭・地域・行政等が一体となった、次代を生きる子どもたちを育むまちづくりの推進																				
施策項目	① 学校・家庭・地域の連携協力の推進																				
方針・目標	関係機関・団体と連携しボランティアや世代間交流の提供、社会環境づくりなどを行うことで、能代市の将来を担う青少年の自立・成長を促します。																				
事業・取組名	青少年健全育成事業																				
目標値	関係機関と連携し、非行防止街頭キャンペーンなどの各種事業を実施します。また、青少年に向けて事業への協力依頼を行い、ボランティアや世代間交流の提供を行います。																				
前年度項目	3 社会教育 (1) 生涯学習推進・社会教育振興																				
前年度の意見と対応	小学校との連携強化、中学校、高等学校、特別支援学校等との連携 ⇒個々の事業において連携し実施しています。																				
事務事業の実績	<p>1 青少年育成健全事業</p> <p>(1) 「平成 27 年度能代市青少年健全育成活動方針」策定 ホームページへの掲載、各自治会長への配布、関係団体への周知に努めた。</p> <p>(2) 社会参加活動促進事業「みんなで Action!」を青少年育成能代市民会議や連合婦人会とタイアップして実施した。(家庭教育支援事業との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ運動 中学生 20 人</li> <li>・非行防止街頭キャンペーン 中学生 3 人、高校生 22 人</li> <li>・交通安全うちわ作戦 中学生 8 人、高校生 2 人</li> <li>・交通安全呼びかけ運動 中学生 6 人</li> <li>・子育て・高齢者世帯訪問 高校生 4 人</li> </ul> <p>(3) 事故防止の看板設置</p> <p>2 能代市成人式の開催</p> <p>(1) 新成人で組織する実行委員会方式で開催</p> <p>(2) 記念品は能代らしいものとし、秋田杉製スマホスタンドとした。</p> <p>(3) 出席者の推移</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>対象者</th> <th></th> <th>出席者</th> <th>出席率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H27</td> <td>H6. 4. 2～H7. 4. 1 生</td> <td>587 人</td> <td>491 人</td> <td>83. 6%</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>H5. 4. 2～H6. 4. 1 生</td> <td>521 人</td> <td>429 人</td> <td>82. 3%</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>H4. 4. 2～H5. 4. 1 生</td> <td>548 人</td> <td>452 人</td> <td>82. 5%</td> </tr> </tbody> </table>		対象者		出席者	出席率	H27	H6. 4. 2～H7. 4. 1 生	587 人	491 人	83. 6%	H26	H5. 4. 2～H6. 4. 1 生	521 人	429 人	82. 3%	H25	H4. 4. 2～H5. 4. 1 生	548 人	452 人	82. 5%
	対象者		出席者	出席率																	
H27	H6. 4. 2～H7. 4. 1 生	587 人	491 人	83. 6%																	
H26	H5. 4. 2～H6. 4. 1 生	521 人	429 人	82. 3%																	
H25	H4. 4. 2～H5. 4. 1 生	548 人	452 人	82. 5%																	

点検・評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る  [説明] ①青少年問題協議会を開催し、青少年健全育成活動方針（単年度方針）を定め関係機関・団体に協力を依頼した。 ②非行防止街頭キャンペーンには、例年の高校生の参加に加え、中学生の参加もあり、より広範囲な交流を図ることができた。 ③成人式は、新成人により組織される実行委員（8名）により、企画・運営を行った。
課題及び今後の取組の方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他（                      ）  [具体的な課題及び取組] ①関係機関との連携 ・引き続き関係機関や団体と連携しながら、青少年健全育成活動に努める。 ・能代市民会議等の会員の高齢化が進んでいるため、会の存続のため支援を継続する。 ②ニート、引きこもり支援等への対応 国の施策が「子ども若者活動支援推進法」により、青少年の非行防止からニート、引きこもり支援等にシフトしているため、市の方向性について検討の必要がある。 ③成人式の取組内容の充実 新成人による実行委員会の取組内容をさらに充実させ、成人の意義を考え、大人の仲間入りとなる自覚を持つきっかけとする。
学識経験者の意見	○市民会議等の会員の高齢化が進んでいるとすれば、若返りに向けた働きかけをお願いしたい。 ○ニート、引きこもり支援も重要な課題であるので、非行防止とともに重要な柱にしていただきたい。 <input type="checkbox"/> 平成27年度能代市青少年健全育成活動方針を策定し、ホームページに掲載したり関係団体等に配布したりするなどして周知を図っている。 <input type="checkbox"/> 非行防止街頭キャンペーンに中学生が初めて参加するなど、中学校・高等学校との連携に努めている。

基本目標	3 学校・家庭・地域・行政等が一体となった、次世代を生きる子どもたちを育むまちづくりの推進					
施策項目	① 学校・家庭・地域の連携協力の推進					
方針・目標	市民の興味や関心を高めるような、施設を利用したイベント・講座を提供し、子どもから大人まで幅広く気軽に交流できる子ども館を目指します。					
事業・取組名	子ども館活動事業					
目標値	① 来館者数 36,000 人を目指します。 ② 講座受講者の評価が「満足」である割合 90%以上を目指します。					
前年度項目	3 社会教育 (6) 気軽に交流できる環境づくり					
前年度の意見と対応	① 「宇宙のまちづくり」の発信 ⇒ホームページやメール配信、報道機関との連携等情報発信に努めています。 ② 魅力ある展示やイベントの工夫 ⇒各種ロケット講座、ロボットを用いたプログラミング講座等、利用者のニーズに応じた講座を開催しています。 ③ 小・中学校等との連携 ⇒プラネタリウムによる天体学習や職場体験による連携を図っています。					
事務事業の実績	1 来館者数等の推移					
	区分	平成27年度	平成26年度	平成25年度		
	総来館者数	45,843人	36,242人	32,271人		
	プラネタリウム観覧者数	5,484人	4,713人	4,915人		
	事業活動参加者数	(139件) 6,401人	(160件) 6,584人	(115件) 6,743人		
	プラネタリウム団体観覧者数	(60件) 2,067人	(63件) 1,589人	(69件) 2,194人		
	2 講座満足度アンケート【5段階評価で平均4.85(4.69)】					
	項目	満足	やや満足	ふつう	やや不満足	不満足
	人数(人)	360(392)	40(83)	10(34)	0(2)	0(0)
	割合(%)	87.8(76.7)	9.8(16.2)	2.4(6.7)	0(0.4)	0(0)
※( )は26年度数値						
(1) 主なイベント・講座 ※( )は26年度実績						
・科学あそび 12件 466人 (8件、386人)						
・「はやぶさ」の日イベント 4件 55人 (4件、117人)						
・コズミックカレッジ 1件 15人 (1件、24人)						
・各種ロケット教室 22件 292人 (4件、58人)						
・【新】ロボット・プログラミング教室 22件 167人						
(2) 特別イベント ※( )は26年度実績						
・のしろ銀河フェスティバル2015 2,115人 (1,357人)						
・水ロケット製作&打ち上げ体験 80人 (126人)						
・プラネタリウム無料上映 6回 142人 (10回、385人)						
・2階宇宙館のボランティア等による説明						

	<p>(3) 宇宙科学への関心を高める工夫 ※( )は26年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宇宙検定の実施 合格者数…上級5名、中級7名、初級36名 (21名、 30名、 150名)</li> <li>・子ども館館内ウォークラリーの実施</li> <li>・2階展示室ガイドの実施</li> </ul>
<p>点検・評価</p>	<p> <input type="checkbox"/>目標を上回る      <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ目標どおり      <input type="checkbox"/>目標をやや下回る  <input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る </p> <p>[説明]</p> <p>①「宇宙のまちづくり」に則した取組を行った。</p> <p>②情報発信により、市外からの来館者が増加した。</p> <p>③各種講座・イベント等の開催、大型遊具設置の相乗効果により、来館者数が増加した。</p> <p>④モデルロケット製作は、複数回の受講者が増えてきた。</p> <p>⑤北海道からの修学旅行を始め、市外からの小・中学生の見学や天体関連の授業が行われ、プラネタリウム、ロケットの打ち上げ体験が好評であった。</p>
<p>課題及び今後の取組の方向性</p>	<p> <input type="checkbox"/>拡充      <input checked="" type="checkbox"/>継続      <input type="checkbox"/>廃止検討      <input type="checkbox"/>その他 ( ) </p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <p>① 宇宙教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種ロケットの製作・打ち上げ講習会（子ども館主催）</li> <li>・宇宙少年団ノシロ分団との協力</li> <li>・宇宙教育の更なる情報発信（JAXA動画ニュース等の放映）</li> <li>・モデルロケット指導者ライセンス取得講習会の開催（秋田大学と協力）</li> </ul> <p>② 小・中学校との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラネタリウムを用いた天体関連の授業の実施（小学校4年生対象）</li> <li>・小学校理科担当者研修会の実施（年12回実施）</li> <li>・出前講座の実施（親子レク等）</li> </ul> <p>③ プラネタリウムの更新</p> <p>プラネタリウム本体の老朽化に伴い、デジタル化への更新を推進する。</p> <p>④ 1階展示スペースの充実</p> <p>現在ある植物標本や動物剥製のスペースを縮小し、体験型学習のコーナーの設置を推進する。</p> <p>⑤ 理科の拠点センターとしての役割</p> <p>小学校の理科担当者が気軽に授業の相談や実験器具の使い方を学べる場と情報の提供に努める。</p>
<p>学識経験者の意見</p>	<p>○種々の取組が行われ大きな成果を挙げていることから、今後とも継続していただきたい。特に今後、小学校の理科担当者との連携に期待したい。</p> <p>□総来館者数及びプラネタリウム観覧者数が前年度よりも大幅に増えた。子どもたちにとって興味のある科学あそびや各種ロケット教室を開催したり、のしろ銀河フェスティバル2015などの特別イベントを企画したことによる成果と思う。また、積極的な情報発信により、北海道からの修学旅行団をはじめ、市外からの来館者数が増えたことも一因と思う。</p>

	<p>□今後とも、プラネタリウム本体のデジタル化への更新や体験型学習コーナーの設置などにより、子どもたちにとって魅力のある子ども館を目指してほしい。</p>
--	--

基本目標	3 学校・家庭・地域・行政等が一体となった、次代を生きる子どもたちを育むまちづくりの推進																																				
施策項目	② 保護者への学習機会の提供等による家庭教育の支援																																				
方針・目標	核家族化や少子化、産業構造の変化など、子どもや家庭を取り巻く状況が大きく変化しており、保護者に対し様々な手法で学習機会を提供し、家庭教育を支援します。																																				
事業・取組名	家庭教育支援事業																																				
目標値	市民意識調査「子育てを地域で支えあう雰囲気があると思う市民の割合」35%を目指します。																																				
前年度項目	3 社会教育 (1) 生涯学習推進・社会教育振興																																				
前年度の意見と対応	家庭教育支援の取組 ⇒今後も、能代市における子育ての各発達段階の現状と課題、学習ニーズを的確に捉えながら、より効果的な事業となるように内容を精査していきます。																																				
事務事業の実績	<p>1 庁内連携 (1) 家庭教育支援事業推進会議を開催(3月) (2) 家庭教育支援事業報告書を作成し関係者に配布(3月)</p> <p>2 情報提供 (1) 家庭教育通信「Only one」を発行(3回) (2) 「ちょこっと家庭教育通信」を発行・配布(2件3種)</p> <p>3 学習機会の提供 (1) 家庭教育関係講座の実施 【参加者数の推移】 (件、人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">対象</th> <th rowspan="2">講座名</th> <th colspan="2">27年度</th> <th colspan="2">26年度</th> </tr> <tr> <th>講座数</th> <th>参加者数</th> <th>講座数</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>家庭教育関係講座</td> <td>23</td> <td>745</td> <td>23</td> <td>570</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">次代の親</td> <td>家庭教育関係講座</td> <td>1</td> <td>55</td> <td>2</td> <td>263</td> </tr> <tr> <td>社会参加活動推進事業「みんなでAction!」(命の大切さ事業含む)</td> <td>11</td> <td>中高生 92 受入団体 326</td> <td>13</td> <td>中高生 88 受入団体 434</td> </tr> <tr> <td>祖父母</td> <td>じじばばの孫かて講座</td> <td>1</td> <td>延べ14</td> <td>1</td> <td>延べ12</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 「家庭教育に関する・家読におすすめの本」の貸出 (利用者60人、貸出冊数153冊)</p> <p>4 人材の育成 祖父母への学習機会の提供 「じじばばの孫かて講座」の実施</p>				対象	講座名	27年度		26年度		講座数	参加者数	講座数	参加者数	保護者	家庭教育関係講座	23	745	23	570	次代の親	家庭教育関係講座	1	55	2	263	社会参加活動推進事業「みんなでAction!」(命の大切さ事業含む)	11	中高生 92 受入団体 326	13	中高生 88 受入団体 434	祖父母	じじばばの孫かて講座	1	延べ14	1	延べ12
対象	講座名	27年度		26年度																																	
		講座数	参加者数	講座数	参加者数																																
保護者	家庭教育関係講座	23	745	23	570																																
次代の親	家庭教育関係講座	1	55	2	263																																
	社会参加活動推進事業「みんなでAction!」(命の大切さ事業含む)	11	中高生 92 受入団体 326	13	中高生 88 受入団体 434																																
祖父母	じじばばの孫かて講座	1	延べ14	1	延べ12																																

点検・評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input checked="" type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る  [説明] ① H27年度 市民意識調査「子育てを地域で支えあう雰囲気があると思う市民の割合」 →26%（前年度 25.2%） ②家庭教育通信の認知度は非常に高い。子育て家庭でよく読まれている。 ③家庭教育関係講座のアンケート結果は、「とても参考になった」等の評価が多い。
課題及び今後の取組の方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他（                      ）  [具体的な課題及び取組] ①中学生の保護者を対象とする学習機会の充実 ・「家庭教育に関する本・家読におすすめの本」の貸出を継続する。 ・保護者へ直接情報が届く周知方法を検討する。  ②プレ親（次代の親となる中学生・高校生）を対象とした講座等の充実 ・命の大切さ事業（赤ちゃんとのふれあい）を継続する。 ・家庭教育関係講座の開催校を増やす。
学識経験者の意見	○家庭教育関係講座への保護者の参加者数が大きく増加しており、その要因が知りたいところである。また、次代の親向けの家庭教育関係講座の参加者数が大幅に減少しており、この点の分析もほしい。 <input type="checkbox"/> 家庭教育通信「Only one」や「ちょこっと家庭教育通信」は、子育て家庭のみならず多くの市民に読まれている。 <input type="checkbox"/> 市民意識調査「子育てを地域で支えあう雰囲気があると思う市民の割合」は、目標値には達しなかったものの、前年度を上回った。今後とも、中学生の保護者やプレ親などを対象とした学習機会や講座を設けるなどして、家庭教育を支援して欲しい。

基本目標	3 学校・家庭・地域・行政等が一体となった、時代を生きる子どもたちを育むまちづくりの推進
施策項目	③ 読書活動の推進
方針・目標	能代市子ども読書活動推進計画に基づき、子どもの感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かにするため、子どもの発達段階に応じた取組を推進します。
事業・取組名	読書活動推進事業
目標値	子ども読書活動推進計画における指標である「不読率（1カ月に1冊も本を読まない子どもの割合）の低下」を目指します。（県学習状況調査による不読率を県平均より下回るようにします。）  参考指標：小学2年生「本を読むことが好きか」 小学6年生「家や図書館で本を読む割合」 中学3年生「好きな本・忘れられない本はあるか」 高校3年生「あなたにとって本は必要か」 ※小学6年生は全国学力学習状況調査結果、それ以外は読書実態調査結果から。
前年度項目	新規
前年度の意見と対応	—
事務事業の実績	「能代市子ども読書活動推進計画」に基づいた取組を行った。 1 啓発活動 （1）読書活動推進関係講座の実施 ・情報リテラシー講座（12/19実施 参加者 8人） ・「家族で読書」講座（11/ 1実施 参加者 20人） （2）能代版読書記録ノート「能代っ子家読ノート」の作成・配布 ・小1～4年生用 2,500部、小5～中学生用 1,500部を作成 ・家読ノート：全小学校児童・中学校生徒へ配布（7月中旬） ・ノートのデータをPDF化し、市のホームページに掲載 （3）秋田杉製ブックスタンド作成・配布 ・小学4年生を対象に、秋田杉製ブックスタンドキットを配布（420セット） ・図工の授業で組み立てを行ってもらった。 （4）うちどくDAY（毎月第3日曜日）のポスターを作成し、小中学校および関係機関へ配布した。  2 環境整備 （1）「わたしのおすすめの一冊」図書紹介（広報のしろ掲載） ・市長を皮切りに、教育長、図書館長、読み聞かせ関連団体に紹介をお願いし、毎月10日号へ掲載した。（全12回） ・連載内容をまとめたチラシを作成し、小中学校、幼稚園・保育園に配布した。（2回） （2）読書実態調査を実施 ・市内の小中学校に在籍する、小学2年生、中学3年生、高校3年生を対象に、計画の参考指標とするため、事業実施前の読書や本に関する実態調査を実施した。



点検・評価	<p><input checked="" type="checkbox"/>目標を上回る      <input type="checkbox"/>ほぼ目標どおり      <input type="checkbox"/>目標をやや下回る  <input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <p>[説明]  不読率は、全ての学年が県平均を下回った。  【平成27年度県学習状況調査 質問紙結果 P. 4の表の再掲】</p> <table border="1" data-bbox="459 369 1187 638"> <thead> <tr> <th>学 年</th> <th>能代市</th> <th>県比較</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学4年</td> <td>2.5%</td> <td>-0.1P</td> </tr> <tr> <td>小学5年</td> <td>1.3%</td> <td>-2.0P</td> </tr> <tr> <td>小学6年</td> <td>2.1%</td> <td>-2.3P</td> </tr> <tr> <td>中学1年</td> <td>5.0%</td> <td>-2.1P</td> </tr> <tr> <td>中学2年</td> <td>6.6%</td> <td>-1.9P</td> </tr> </tbody> </table> <p>参考指標：  小学2年生「本を読むことが好き・どちらかといえば好き」97.6%  中学3年生「好きな本・忘れられない本がある」56.1%  小学6年生「家や図書館で本を読む割合」83.3%  高校3年生「自分にとって本は必要だ」64%</p>	学 年	能代市	県比較	小学4年	2.5%	-0.1P	小学5年	1.3%	-2.0P	小学6年	2.1%	-2.3P	中学1年	5.0%	-2.1P	中学2年	6.6%	-1.9P
学 年	能代市	県比較																	
小学4年	2.5%	-0.1P																	
小学5年	1.3%	-2.0P																	
小学6年	2.1%	-2.3P																	
中学1年	5.0%	-2.1P																	
中学2年	6.6%	-1.9P																	
課題及び今後の取組の方向性	<p><input type="checkbox"/>拡充      <input checked="" type="checkbox"/>継続      <input type="checkbox"/>廃止検討      <input type="checkbox"/>その他（                      ）</p> <p>[具体的な課題及び取組]  学校・家庭・地域の連携を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども読書活動推進計画に基づき、施策を実施していく。</li> <li>・家読ノートの利用が高まるよう、家庭で実践しやすい取組を実施する。</li> <li>・学年が上がるにつれて、読書が身近でなくなる傾向が見られる。中学生・高校生を対象とする取組を増やしていく。</li> </ul>																		
学識経験者の意見	<p><input type="checkbox"/>様々な取組が行われており、今後とも継続していただきたい。小中学校、教職員との連携も一層進めていただきたい。</p> <p><input type="checkbox"/>不読率について、目標の数字を挙げたり、県平均との対比をしてもらえるとわかりやすい。</p> <p><input type="checkbox"/>能代版読書記録ノート「能代っ子家読ノート」を作成し、全小・中学生に配布するとともに、ノートのデータをPDF化して市のホームページに掲載することによって、家読の取組が家庭を巻き込んだものになっている。</p> <p><input type="checkbox"/>毎月、広報のしろの10日号に掲載されている「わたしのおすすめの一冊」は、読書を身近なものとして捉え、市民の読書意欲を喚起するうえで効果的である。</p>																		

【 生涯学習・スポーツ振興課 】

基本目標	3 学校・家庭・地域・行政等が一体となった、次代を生きる子どもたちを育むまちづくりの推進
施策項目	④地域活動に必要な学習機会の提供
方針・目標	子どもの体験活動等に関わるコーディネーター等を対象に学習機会及び情報交換の場を提供し、資質向上を図り体験活動の推進・充実を図ります。
事業・取組名	コーディネーター等研修事業
目標値	情報交換等によりコーディネーターとしての役割を再認識するとともに、地域の人材や学習素材を共有し、体験活動の充実を目指します。
前年度項目	3 社会教育 (1) 生涯学習推進・社会教育振興
前年度の意見と対応	－
事務事業の実績	<p>(1) 放課後子ども教室コーディネーター会議 (4/22)</p> <p>参加者 9名</p> <p>内容 コーディネーターの役割や情報交換</p> <p>(2) 放課後子ども教室コーディネーター研修会兼子どもの体験活動関係者研修会 (3/25)</p> <p>参加者 6名</p> <p>内容 地域活動の人材や学習素材を持ち寄り情報交換</p> <p>(3) 普通救命講習会 (7/1 から3回)</p> <p>参加者 39名</p> <p>内容 プール開放や体育館開放等に伴う安全管理員の任務及び救命法について学ぶ</p>
点検・評価	<p><input type="checkbox"/>目標を上回る      <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ目標どおり      <input type="checkbox"/>目標をやや下回る</p> <p><input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <p>[説明]</p> <p>①年度初めの会議は、各地域で活動しているコーディネーターが一堂に会し、前年度の活動内容を振り返るとともに、新年度の活動や役割を確認し合うことができる有意義な会議であった。</p> <p>②年度末の研修会は参加者が少なかったが、情報交換等により、子どもの体験活動の重要性について考えを深めることができた。</p> <p>③普通救命講習会は、夏休みのプール開放前に実施。監視にあたる安全管理員全員が受講し、事故を未然に防ぐ対策を講じている。</p>
課題及び今後の取組の方向性	<p><input type="checkbox"/>拡充      <input checked="" type="checkbox"/>継続      <input type="checkbox"/>廃止検討      <input type="checkbox"/>その他 ( )</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <p>①研修・講習内容の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊富な社会経験を持つ外部人材等との協力によりスキルアップを図る。</li> <li>・市外の取組も参考に、幅広い視野での研修を実施</li> <li>・コーディネーター同士の連携強化</li> </ul> <p>②小学校との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーディネーター等による学校訪問</li> </ul>

<p>学 識 経 験 者 の 意 見</p>	<p>○会議や研修会を通じて、コーディネーターの力量向上や、体験活動の充実に今後とも努めていただきたい。また、学校、教職員との連携にも努めていただきたい。</p> <p>□子どもの体験活動等を企画・運営するにあたり、コーディネーターの担う役割は非常に大きいものがある。コーディネート力を高めるためにも、いろいろな機会を捉えて研修を深めたいものである。</p> <p>□普通救命講習会は、プールでの事故を未然に防ぐためにも必要であり、すべての受講対象者に受講を呼びかけながら、今後も続けて行ってほしい。</p>
----------------------------	--

基本目標	3 学校・家庭・地域・行政等が一体となった、次代を生きる子どもたちを育むまちづくりの推進						
施策項目	⑤ 食育を通じた健全な子どもの育成						
方針・目標	(1) 毎日3食きちんと食べよう (2) 健康的でバランスのよい食事をしよう (3) 食の安全・安心に関する知識を身につけよう (4) 地元食材を通じて能代を知り、旬のものを食べよう (5) 計画的な食育推進運動を進めよう						
事業・取組名	①学校給食事業 ②食について理解を深める体験活動事業						
目標値	①毎日朝食を食べる子どもの割合 100%を目指します。 ②1日1回は家族と一緒に食事をする割合 98%を目指します。 ③学校給食における地場農産物の使用割合を維持します。						
前年度項目	新規						
前年度の意見と対応	—						
事務事業の実績	(1) 毎日3食きちんと食べよう ①給食献立表を通して、朝ごはんの効果等の情報提供を行った。(36回) ②栄養教諭が給食時間に訪問し、食事に関して情報提供を行った。(30回) ③児童のライフスタイル調査を行った。 ④「早寝・早起き、朝ご飯」を推進した。 (2) 健康的でバランスの良い食事をしよう ①子ども料理教室(中央公民館事業)を開催した。(4回、延べ36人) ②栄養教諭による、食事と健康に関する食育授業を行った。(30回) ③給食だよりの毎月発行により、家庭への情報提供を行った。(36回) (3) 食の安全・安心に関する知識を身につけよう 給食保護者試食会を開催し、食育に関する講話、資料提供を行った。(20回) (4) 地元食材を通じて能代を知り、旬のものを食べよう ①放課後子ども教室を開催した。(20回、延べ295人) ②子ども夏休み・冬休み体験(二ツ井公民館)を開催した。(2回、延べ43人参加) ③給食食育デー(毎月19日)において地場産物を多用した献立を提供した。(36回) ④外部講師による、地場産物に関する食育授業を行った。(24回) (5) 計画的な食育推進運動を進めよう ①食育全体計画の作成 ②食育指導に関する教諭等への指導・助言						
点検・評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る						
	[説明] ①毎朝、朝食を食べる子どもの割合 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>27年度</th> <th>26年度</th> <th>比較</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>96.6%</td> <td>97.6%</td> <td>△1.0ポイント</td> </tr> </tbody> </table>	27年度	26年度	比較	96.6%	97.6%	△1.0ポイント
27年度	26年度	比較					
96.6%	97.6%	△1.0ポイント					

	<p>26年度より1ポイント下がったものの、ほとんどの児童生徒が朝食を摂っていて、良好な食生活である。</p> <p>②1日1回は家族と一緒に食事をする割合</p> <table border="1" data-bbox="483 282 1106 365"> <thead> <tr> <th>27年度</th> <th>26年度</th> <th>比較</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>94.9%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>ほとんどの児童生徒が家族と一緒に食事を摂っていて、良好な食生活の環境になっている。</p> <p>③学校給食における地場農産物の使用割合</p> <table border="1" data-bbox="483 490 1106 573"> <thead> <tr> <th>27年度</th> <th>26年度</th> <th>比較</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>43.9%</td> <td>49.2%</td> <td>△5.3ポイント</td> </tr> </tbody> </table> <p>天候により供給量や価格が安定しないため、使用割合は変動する。</p>	27年度	26年度	比較	94.9%	—	—	27年度	26年度	比較	43.9%	49.2%	△5.3ポイント
27年度	26年度	比較											
94.9%	—	—											
27年度	26年度	比較											
43.9%	49.2%	△5.3ポイント											
<p>課題及び今後の取組の方向性</p>	<p><input type="checkbox"/>拡充    <input checked="" type="checkbox"/>継続    <input type="checkbox"/>廃止検討    <input type="checkbox"/>その他（                      ）</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <p>①朝、朝食を食べる子どもの割合 栄養教諭による栄養指導で、朝食の大切さや栄養のバランス等について学ぶことで、朝食を摂る児童生徒が100%になるよう働きかけていく。</p> <p>②1日1回は家族と一緒に食事をする割合 食の原点は家庭での食事であることから、親子で参加する教室の開催や、保護者へのレシピ配布など、家庭に持ち帰って話題にできる講座の実施を推進していく。 また、孤食の児童生徒数のゼロを目指すために、給食だより等を活用して保護者に周知し啓蒙を図る。</p> <p>③学校給食における地場農産物の使用割合 地場産農産物の積極的な利用を推進していくが、季節や天候等に左右されがちなため、食材供給の安定化が課題である。</p> <p>④講座内容の充実 食を取り入れた講座は、子ども達に好評である。これまでも食育を基本に事業を実施しており、今後も可能な限り、能代の食材や旬のものを取り入れ、楽しみながら食を学べる講座を実施していく。</p>												
<p>学識経験者の意見</p>	<p>○十分な取組が行われており、継続していただくように期待する。</p> <p>○時々朝食を食べない子どもが3%、1日1回も家族と一緒に食事をしない割合が5%ということであろうか（無回答もあるのかどうか）。そうだとすれば、比較的大きな割合のように思える。調査やケア、対策も含めた対応が必要である。</p> <p><input type="checkbox"/>「毎日、朝食を食べる子どもの割合」や「1日1回は家族と一緒に食事をする割合」は、目標値に達していないものの、ほとんどの児童生徒が実践できており、良好であると思う。目標値の達成を目指し、引き続き働きかけていってほしい。</p> <p><input type="checkbox"/>給食だよりはすべての学校で配布され、家庭への情報提供の一助となっている。願わくは、掲載されている内容について、児童生徒はもちろん家庭において、もっと関心をもって読んでもらえるよう、配布の仕方等を工夫してはどうだろうか。</p>												

基本目標	4 ふるさとの伝統文化の継承と文化芸術の振興
施策項目	① 伝統芸能の継承
方針・目標	郷土の伝統芸能を市民共有の財産として、その保存・継承に取り組みます。
事業・取組名	民俗芸能振興事業
目標値	能代市民俗芸能連合会の構成団体数19を維持します。
前年度項目	3 社会教育 (2) 文化芸術活動の振興と文化財の保存・継承
前年度の意見と対応	関係諸団体の活動支援の継続 ⇒引き続き支援を行います。
事務事業の実績	<p>1 ①合同発表会（能代地区） 日時：平成27年10月11日 会場：能代市総合体育館（産業フェア会場） 出演団体数：5団体</p> <p>②合同発表会（二ツ井地区） 日時：平成27年10月25日 会場：二ツ井伝承ホール（雨天会場） 出演団体数：7団体</p> <p>2 後継者育成事業 各保存会で実施 単位保存会数：19団体</p> <p>3 用具整備補助 小繋郷土芸能保存会の用具修繕事業への補助 内容：獅子踊り用桶太鼓胴修理等（3台） 囃子用桶太鼓皮張替等（2台） 補助額：87,000円</p> <p>4 子ども民俗芸能発表会 日時：平成27年11月15日 会場：二ツ井伝承ホール 発表民俗芸能数：3（切石ささら踊・仁鮎ささら踊・富根報徳番楽）</p> <p>5 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと学習交流会での発表機会の設定協力</li> <li>・周年記念事業の働きかけ・・・平成28年度実施予定</li> <li>・市広報への記事掲載により合同発表会等の告知を支援</li> </ul>
点検・評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input checked="" type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る  [説明] ・平成27年度中に1団体が退会し、連合会構成団体数は18となった。 ・地域の民俗芸能の学習に積極的だった小学校でも、地域の指導者不足等から従来の活動が困難となっている。
課題及び今後の取組の方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他（                      ）  [具体的な課題及び取組] 用具整備支援のあり方の検討（県指定の民俗芸能への適用等）など、効果的な単位保存会活動の支援を行っていく。

学 識 経 験 者 の 意 見	<p>○郷土の伝統芸能の保存・継承に向けた取組は充実したものとなっており、今後、学校での少子化と、指導者の高齢化への対応を連合会とともに検討していただきたい。</p> <p>□平成27年度中に1団体が退会したことは残念であるが、今後とも構成団体数の維持に向けて、効果的な支援を行ってほしい。</p> <p>□合同発表会や子ども民俗芸能発表会の開催を楽しみにしている市民が多い。今後とも、参加団体の協力の下、発表会を継続してほしい。</p>
--------------------	---

基本目標	4 ふるさとの伝統文化の継承と文化芸術の振興
施策項目	② 文化財保護事業の推進
方針・目標	郷土の文化財を市民共有の財産として、その保存、継承に取り組みます。
事業・取組名	文化財保護事業
目標値	①指定・登録文化財の保護に努めます。 ②歴史探訪会を開催するとともに関係団体の活動を支援し、市民の文化財保護意識の高揚に努めます。
前年度項目	3 社会教育 (2) 文化芸術活動の振興と文化財の保存・継承
前年度の意見と対応	「歴史探訪会」への参加者の満足度が高い。 ⇒今後も関係団体との共催により、市民ニーズに適合した企画の実施に努めます。
事務事業の実績	1 指定・登録文化財数 99件(県指定文化財1件増) 2 歴史探訪会 ・平成27年6月27日「秋田市の指定文化財」参加者24人 ・平成27年10月31日「男鹿・南秋の文化財」参加者30人 3 関係団体の活動支援 ・秋田県文化財保護協会能代支部 ・のしろ檜山周辺歴史ガイドの会 ・二ツ井町文化財保護協会
点検・評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る [説明] ・指定文化財は、平成28年3月に龍泉寺所有の「二の舞 腫面」が新たに指定された。指定解除・登録抹消された文化財はなかった。 ・歴史探訪会については、秋田県文化財保護協会能代支部と共催し、市民のニーズにあったテーマを設定できた(参加者の満足度評価は、5段階で4.7であった)。
課題及び今後の取組の方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他( ) [具体的な課題及び取組] 指定文化財の市外流出の防止を図るため、文化財所有者の情報収集に努めるとともに、市外所有者には市への寄託を依頼する。
学識経験者の意見	○文化財の探訪会については、能代支部と連携して今後とも充実に努めていただきたい。 <input type="checkbox"/> 「歴史探訪会」への参加者の満足度評価が4.7と高い。市民のニーズにあったテーマ設定であったことがうかがえる。 <input type="checkbox"/> 県指定文化財として新たに1件が加わったことは喜ばしい。今後とも、文化財所有者についての情報収集に努め、指定文化財の確保につなげてほしい。



基本目標	4 ふるさとの伝統文化の継承と文化芸術の振興
施策項目	② 文化財保護事業の推進
方針・目標	国指定史跡檜山安東氏城館跡を保護管理するとともに歴史学習の場として整備活用します。
事業・取組名	檜山安東氏城館跡保存管理事業
目標値	①檜山城跡の整備の指針となる環境整備計画を策定するため、策定委員会を開催します。 ②史跡の管理のための除草、危険木の伐採を実施します。
前年度項目	3 社会教育 (2) 文化芸術活動の振興と文化財の保存・継承
前年度の意見と対応	—
事務事業の実績	1 史跡檜山安東氏城館跡環境整備計画策定委員会を開催 4回開催：7/13、10/6、12/2、3/18 2 史跡の除草を実施 檜山城跡：遺構箇所6ha×2回、遊歩道2回 大館跡：遺構箇所7ha×1回 3 支障木の伐採を実施 檜山城跡：238本
点検・評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る [説明] ・史跡檜山安東氏城館跡環境整備計画策定委員会は、予定どおり4回開催でき、来年度中の計画策定の目処がついた。 ・除草については、檜山城跡の遺構箇所除草面積を1ha増やすことができ、見学者の利便性を高めることができた。
課題及び今後の取組の方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他 ( ) [具体的な課題及び取組] ①整備及び発掘調査体制の充実に努める。 (仮称)調査整備委員会の設置(移行)による指導体制の確立 ②市民との協働による管理を模索する。 関心を高めるための情報発信のあり方の検討
学識経験者の意見	○市民との協働による管理や、関心を高めるための情報発信のあり方について検討が行われるようなので、ぜひ具体策を早めにまとめて、実行をお願いしたい。 <input type="checkbox"/> 史跡檜山安東氏城館跡環境整備計画策定委員会を予定どおり開催でき、計画策定の目処がついたことにより、今後の整備・発掘調査に弾みがついたものと思う。 <input type="checkbox"/> 史跡の除草については、当初計画した面積よりも1ha増やせたことにより、見学者の利便性が高まったと思う。

基本目標	4 ふるさとの伝統文化の継承と文化芸術の振興
施策項目	② 文化財保護事業の推進
方針・目標	文化財保護法に則り、埋蔵文化財の保存に努めます。
事業・取組名	埋蔵文化財調査事業
目標値	開発行為に関わる確認調査・発掘調査を実施します。
前年度項目	3 社会教育 (2) 文化芸術活動の振興と文化財の保存・継承
前年度の意見と対応	—
事務事業の実績	<p>1 本発掘調査：1件 平影野遺跡</p> <p>2 試掘（確認）調査：3件 平影野遺跡、三岳遺跡、鹹淵遺跡</p> <p>3 試掘（分布）調査：1件 荷上場地区</p> <p>4 立会調査：9件 下大野Ⅰ遺跡、烏野上台遺跡、八重堀館跡、俣后阪遺跡、上町地内、梯子台遺跡、平影野遺跡、塞ノ神遺跡、烏野遺跡</p>
点検・評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る  [説明] 開発事業者側との調整を密にすることにより、埋蔵文化財の保護を比較的円滑に進めることができた。
課題及び今後の取組の方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他（      ）  [具体的な課題及び取組] 文化財保護法に則り、埋蔵文化財保護事務を進める。
学識経験者の意見	○調査が行われた遺跡について、いくつかでいいので、その保存・保護の価値・意義について説明していただけるといいように思う。 ○本発掘調査の1件をはじめとするあわせて14件の調査すべてが当初の計画どおりに進むよう、開発業者側との連携を密にして保護事務にあたってほしい。

基本目標	4 ふるさとの伝統文化の継承と文化芸術の振興																													
施策項目	③ 文化芸術の振興																													
方針・目標	市民の文化芸術活動への支援をとおして、文化芸術の振興に取り組みます。																													
事業・取組名	市民文化振興事業																													
目標値	文化月間の入場者数展示部門 5,000 人、舞台部門 800 人を目指します。																													
前年度項目	3 社会教育 (2) 文化芸術活動の振興と文化財の保存・継承																													
前年度の意見と対応	<p>①入場者増の要因の分析 ⇒体験型企画の実施や国文祭効果が考えられます。今後も、能代市芸術文化協会と連携していきます。</p> <p>②良好に事業が推進されている ⇒能代市芸術文化協会と連携していきます。</p>																													
事務事業の実績	<p>1 文化月間の設定</p> <table border="1" data-bbox="464 741 1366 958"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>展示部門</th> <th>舞台部門</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H27</td> <td>11 団体 入場者数 6,123 人</td> <td>19 団体 入場者数 748 人</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>10 団体 入場者数 5,407 人</td> <td>17 団体 入場者数 795 人</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>10 団体 入場者数 3,603 人</td> <td>16 団体 入場者数 760 人</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>12 団体 入場者数 3,354 人</td> <td>16 団体 入場者数 863 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 芸術文化団体への支援 能代ミュージカル制作・公演費補助 能代ミュージカル・キッズ公演・練習会場使用料負担</p> <p>3 市所蔵絵画展の開催</p> <table border="1" data-bbox="464 1207 1366 1339"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>期日</th> <th>展示テーマ</th> <th>入場者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H27</td> <td>8/13～16</td> <td>能代にゆかりの日本画家展</td> <td>3 7 5 人</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>2/26～3/1</td> <td>能代生まれの洋画家たち</td> <td>5 2 4 人</td> </tr> </tbody> </table>			区分	展示部門	舞台部門	H27	11 団体 入場者数 6,123 人	19 団体 入場者数 748 人	H26	10 団体 入場者数 5,407 人	17 団体 入場者数 795 人	H25	10 団体 入場者数 3,603 人	16 団体 入場者数 760 人	H24	12 団体 入場者数 3,354 人	16 団体 入場者数 863 人	年度	期日	展示テーマ	入場者数	H27	8/13～16	能代にゆかりの日本画家展	3 7 5 人	H26	2/26～3/1	能代生まれの洋画家たち	5 2 4 人
区分	展示部門	舞台部門																												
H27	11 団体 入場者数 6,123 人	19 団体 入場者数 748 人																												
H26	10 団体 入場者数 5,407 人	17 団体 入場者数 795 人																												
H25	10 団体 入場者数 3,603 人	16 団体 入場者数 760 人																												
H24	12 団体 入場者数 3,354 人	16 団体 入場者数 863 人																												
年度	期日	展示テーマ	入場者数																											
H27	8/13～16	能代にゆかりの日本画家展	3 7 5 人																											
H26	2/26～3/1	能代生まれの洋画家たち	5 2 4 人																											
点検・評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る  [説明] 文化月間の入場者数については、展示部門で目標を大きく上回ったものの、舞台部門では目標に達しなかった。																													
課題及び今後の取組の方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他 ( )  [具体的な課題及び取組] 能代市芸術文化協会との連携を密にし、市民文化月間への参加団体の維持・拡大を図る。																													
学識経験者の意見	<input type="checkbox"/> 特に展示部門での入場者数の増加は著しいことから、この状況の維持に努めていただきたい。舞台部門も団体数は増えており、入場者増に向けて方策を、協会と連携して検討していただきたい。 <input type="checkbox"/> 文化月間の展示部門の入場者数については、目標値を大幅に上回った。また、舞台部門の入場者については前年度を若干下回ったものの、参加団体数は増えている。今後とも、指定管理者と連携して取り組んでほしい。																													

基本目標	4 ふるさとの伝統文化の継承と文化芸術の振興																																																																																								
施策項目	③ 文化芸術の振興																																																																																								
方針・目標	市民の文化芸術の振興と福祉の増進を図るため、舞台芸術の上演や展示会等に広く開放し市民の文化芸術活動の奨励に努めるとともに、優れた文化芸術の鑑賞機会を提供します。																																																																																								
事業・取組名	文化会館主催事業																																																																																								
目標値	事業数及び入場者数の過去3年間の平均値との比較で、同等あるいは上回ること。																																																																																								
前年度項目	3 社会教育 (4) 芸術文化の振興と福祉の増進を図る																																																																																								
前年度の意見と対応	<p>①利用者増に向けた取組の継続 ⇒指定管理者と連携し、市民サービスの向上を図ります。</p> <p>②アンケート結果を反映させた事業の検討 ⇒指定管理者と連携し、市民ニーズの反映に努めます。</p> <p>③市民の発表の場としてのロビー提供の継続 ⇒指定管理者と連携しながら、ロビーを発表の場として提供します。</p>																																																																																								
事務事業の実績	<p>1 主催事業</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>開催日</th> <th>事業名</th> <th>内容</th> <th>入場者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>6/7(日)</td> <td>2015爆笑!お笑いまつりin能代</td> <td>大衆芸能</td> <td>1,000</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>8/9(日)</td> <td>清塚信也ピアノリサイタル</td> <td>ピアノリサイタル</td> <td>600</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>9/7(月)</td> <td>松竹特別講演「錦絵夏すがた」「明日の幸福」</td> <td>芝居</td> <td>400</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>9/13(日)</td> <td>第11回みんなで歌うコンサート</td> <td>市民参加型コンサート</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>10/4(日)</td> <td>吉田正記念オーケストラ</td> <td>クラシック</td> <td>662</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>12/13(日)</td> <td>第11回クリスマス子どもコンサート</td> <td>子どもお楽しみ会</td> <td>400</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>3/6(日)</td> <td>第16回のしろクラシックコンサート</td> <td>クラシック</td> <td>400</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2"><b>27年度合計</b></td> <td><b>7回開催</b></td> <td><b>3,762</b></td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2"><b>H24~26平均</b></td> <td><b>7回開催</b></td> <td><b>3,972</b></td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2"></td> <td></td> <td><b>△ 210</b></td> </tr> </tbody> </table> <p>2 会場提供型共催事業（文化会館共催）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>開催日</th> <th>事業名</th> <th>内容</th> <th>入場者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2/28(日)</td> <td>能代ミュージカル「東雲飛行場物語」</td> <td>市民ミュージカル</td> <td>917</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>3/13(日)</td> <td>ノシロックフェスティバル2016</td> <td>プロ&amp;アマチュアロックバンドコンサート</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2"><b>27年度合計</b></td> <td><b>2回開催</b></td> <td><b>1,117</b></td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2"><b>H24~26平均</b></td> <td><b>2回開催</b></td> <td><b>1,892</b></td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2"><b>3ヵ年平均との比較</b></td> <td></td> <td><b>△ 775</b></td> </tr> </tbody> </table>					開催日	事業名	内容	入場者数	1	6/7(日)	2015爆笑!お笑いまつりin能代	大衆芸能	1,000	2	8/9(日)	清塚信也ピアノリサイタル	ピアノリサイタル	600	3	9/7(月)	松竹特別講演「錦絵夏すがた」「明日の幸福」	芝居	400	4	9/13(日)	第11回みんなで歌うコンサート	市民参加型コンサート	300	5	10/4(日)	吉田正記念オーケストラ	クラシック	662	6	12/13(日)	第11回クリスマス子どもコンサート	子どもお楽しみ会	400	7	3/6(日)	第16回のしろクラシックコンサート	クラシック	400		<b>27年度合計</b>		<b>7回開催</b>	<b>3,762</b>		<b>H24~26平均</b>		<b>7回開催</b>	<b>3,972</b>					<b>△ 210</b>		開催日	事業名	内容	入場者数	1	2/28(日)	能代ミュージカル「東雲飛行場物語」	市民ミュージカル	917	2	3/13(日)	ノシロックフェスティバル2016	プロ&アマチュアロックバンドコンサート	200		<b>27年度合計</b>		<b>2回開催</b>	<b>1,117</b>		<b>H24~26平均</b>		<b>2回開催</b>	<b>1,892</b>		<b>3ヵ年平均との比較</b>			<b>△ 775</b>
	開催日	事業名	内容	入場者数																																																																																					
1	6/7(日)	2015爆笑!お笑いまつりin能代	大衆芸能	1,000																																																																																					
2	8/9(日)	清塚信也ピアノリサイタル	ピアノリサイタル	600																																																																																					
3	9/7(月)	松竹特別講演「錦絵夏すがた」「明日の幸福」	芝居	400																																																																																					
4	9/13(日)	第11回みんなで歌うコンサート	市民参加型コンサート	300																																																																																					
5	10/4(日)	吉田正記念オーケストラ	クラシック	662																																																																																					
6	12/13(日)	第11回クリスマス子どもコンサート	子どもお楽しみ会	400																																																																																					
7	3/6(日)	第16回のしろクラシックコンサート	クラシック	400																																																																																					
	<b>27年度合計</b>		<b>7回開催</b>	<b>3,762</b>																																																																																					
	<b>H24~26平均</b>		<b>7回開催</b>	<b>3,972</b>																																																																																					
				<b>△ 210</b>																																																																																					
	開催日	事業名	内容	入場者数																																																																																					
1	2/28(日)	能代ミュージカル「東雲飛行場物語」	市民ミュージカル	917																																																																																					
2	3/13(日)	ノシロックフェスティバル2016	プロ&アマチュアロックバンドコンサート	200																																																																																					
	<b>27年度合計</b>		<b>2回開催</b>	<b>1,117</b>																																																																																					
	<b>H24~26平均</b>		<b>2回開催</b>	<b>1,892</b>																																																																																					
	<b>3ヵ年平均との比較</b>			<b>△ 775</b>																																																																																					

3 ロビーコンサート（市民が参加発表し、無料で会場を提供）

8回開催 入場者数：890人

	開催日	事業名	内容	入場者数(人)
1	4/5(日)	第81回 ロビーコンサート	能代西高吹奏楽部	120
2	6/14(日)	第82回 //	コカリナ演奏	100
3	11/5(日)	第83回 //	ゆく秋の抒情を歌う	120
4	12/6(日)	第84回 //	ギター・マンドリン・オカリナ演奏	130
5	12/20(日)	第85回 //	渡辺真弓と仲間たち	100
6	2/13(土)	第86回 //	能代工業高校吹奏楽部	100
7	3/26(土)	第87回 //	能代一中吹奏楽部	120
8	3/27(日)	第88回 //	能代二中吹奏楽部	100
27年度 合計				8回開催 890
H24～26平均				8回開催 820
3ヵ年平均との比較				70

4 市民芸術文化祭（能代市芸術文化協会主催事業）

区分	展示部門	舞台部門
H27	11団体 入場者数 6,123人	19団体 入場者数 748人
H26	10団体 入場者数 5,407人	17団体 入場者数 795人
H25	10団体 入場者数 3,603人	16団体 入場者数 760人
H24	12団体 入場者数 3,354人	16団体 入場者数 863人
H24～26平均	11団体 入場者数 4,121人	16団体 入場者数 806人
3ヵ年平均との比較	△2団体 入場者数 2,002人	3団体 入場者数 △58人

点検・評価

目標を上回る ほぼ目標どおり 目標をやや下回る  
目標を大幅に下回る

[説明]

- ①鑑賞型主催事業は催物のジャンルに偏りが無いよう計画した。総入場者数は3ヵ年平均に対して若干減少した。  
 ②ロビーコンサートは、3ヵ年平均との比較では回数は同じであるが、入場者は増加した。芸術文化に対する市民の関心の高まりは、今後の中・大ホールの利用増に結びつくことが期待できる。

課題及び今後の取組の方向性

拡充 継続 廃止検討 その他（ ）

[具体的な課題及び取組]

市民ニーズを反映した事業を展開するため、入場者に対するアンケートを実施する。平成28年度には、要望があった邦楽（和太鼓）公演を実施予定。

学識経験者の意見

○引き続き、市民ニーズの把握と市民の発表の場の提供を継続することで、利用者増に向けて取り組んでいただきたい。主催事業、共催事業については、入場者増に向けて大変ではあるが、広報活動など工夫を期待したい。

主催事業の事業数については目標値に達しているが、入場者数については目標値を若干下回った。今後とも、市民ニーズを反映した事業の展開に努めてほしい。

ロビーコンサートの入場者数については目標値を上回った。無料で会場を使えるということもあり、多くの団体の利用を期待したい。

【 生涯学習・スポーツ振興課 】

基本目標	5 スポーツで輝く夢のあるまちづくりの推進
施策項目	① 学校と地域における子どものスポーツ機会の充実
方針・目標	心身ともに健康な大人となる基礎をつくるため、学校体育と地域のスポーツ活動の充実を図り、体力の向上を図ります。
事業・取組名	(1) 子どもの体力向上の推進 (2) 小中学校の体育等に関する活動の充実 (3) 子どもを取り巻く社会のスポーツ環境の充実
目標値	体力の向上傾向を維持します。
前年度項目	4 生涯スポーツ（市民体育） (1) スポーツを楽しめる環境を整える
前年度の意見と対応	①各種スポーツ教室や大会の開催と競技団体への支援 ⇒教室や大会の開催、競技団体への支援を進めます。 ②関係団体等との連携 ⇒関係団体等との連携、協働を図ります。
事務事業の実績	(1) 子どもの体力向上の推進 関係団体と連携し運動の習慣化等に取り組んだ。 ・市体育協会 幼児向けの運動能力アップ教室 スポーツ・医科学研修講座 ・市スポーツ少年団 SAQトレーニング実技講習会 (2) 小中学校の体育等に関する活動の充実 ①体育・保健体育学習の充実に取り組んでいる。 ・新体力テスト結果分析を以降の学習指導に生かしている。 ・研修会へ参加し、体育・保健体育学習の充実を図っている。 ・休み時間等を活用した運動を実施している。 ・県の指導者派遣事業等を活用し、専門的な知識や技能を学んでいる。 ②中学校部活動の活性化を図るため、合同チームなどにより生徒のニーズに応じた運動部活動を推進している。 ③児童生徒の運動機会の拡充を図っている。 ・県の歩行に関する調査結果を情報提供している。 ・学校訪問等で、体力の維持、向上を図るための指導や助言をしている。 (3) 子どもを取り巻く社会のスポーツ環境の充実 ①スポーツ少年団活動の適切で円滑な運営を推進した。 ・組織強化のための支援や選手派遣費の支援を行っている。 ・日独スポーツ少年団同時交流受入事業を行った。 ②子どものスポーツ参加機会の充実を図っている。 ・中学校に希望種目の部活動がない競技については、学校と受け皿となるスポーツ少年団等との連携・調整を図っている。 ・学校（主に小学校）と総合型クラブ（常盤小中学区、能代東中学区、二ツ井中学区）との連携・調整を図っている。
点検・評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input checked="" type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る

	<p>[説明]</p> <p>○新体力テスト体力合計点</p> <p>◇男子</p> <table border="1" data-bbox="402 277 1420 450"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>小1</th> <th>小2</th> <th>小3</th> <th>小4</th> <th>小5</th> <th>小6</th> <th>中1</th> <th>中2</th> <th>中3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H27</td> <td>33.01</td> <td>41.17</td> <td>45.35</td> <td>52.57</td> <td>58.95</td> <td>65.13</td> <td>37.65</td> <td>44.51</td> <td>55.09</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>32.10</td> <td>40.70</td> <td>47.10</td> <td>53.80</td> <td>59.40</td> <td>65.50</td> <td>36.80</td> <td>47.70</td> <td>53.50</td> </tr> <tr> <td>比較</td> <td>+0.91</td> <td>+0.47</td> <td>-1.75</td> <td>-1.23</td> <td>-0.45</td> <td>-0.37</td> <td>+0.85</td> <td>-3.19</td> <td>+1.59</td> </tr> </tbody> </table> <p>◇女子</p> <table border="1" data-bbox="402 490 1420 663"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>小1</th> <th>小2</th> <th>小3</th> <th>小4</th> <th>小5</th> <th>小6</th> <th>中1</th> <th>中2</th> <th>中3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H27</td> <td>35.00</td> <td>41.75</td> <td>49.04</td> <td>56.64</td> <td>61.13</td> <td>65.16</td> <td>49.80</td> <td>52.84</td> <td>55.26</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>32.80</td> <td>43.50</td> <td>50.40</td> <td>55.00</td> <td>60.20</td> <td>66.10</td> <td>48.50</td> <td>53.80</td> <td>57.70</td> </tr> <tr> <td>比較</td> <td>+2.20</td> <td>-1.75</td> <td>-1.36</td> <td>+1.64</td> <td>+0.93</td> <td>-0.94</td> <td>+1.30</td> <td>-0.96</td> <td>-2.44</td> </tr> </tbody> </table> <p>①男女とも増加が4学年、減少が5学年となっている。</p> <p>②増加の最大値は、男子が中3の1.59、女子が小1の2.20となっている。</p> <p>③減少の最大値は、男子が中2の▲3.19、女子が中3の▲2.44となっている。</p> <p>※以下は教育研究所の分析結果</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 中2男子以外の学年は県平均を上回っている。</li> <li>2 特に小6と中3の男子、小4女子は県平均を大きく上回っている。</li> <li>3 小学生は、低学年に県平均を下回る種目が多く、高学年ではどの種目もほぼ上回っている。スポ少への加入にもかかわっていると思われるが、低学年の体力づくりにおける取組の工夫が必要である。</li> <li>4 中学生は、立ち幅跳びに課題がみられる。県の課題である50m走は、中2以外良好な成績である。</li> </ol>	年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	H27	33.01	41.17	45.35	52.57	58.95	65.13	37.65	44.51	55.09	H26	32.10	40.70	47.10	53.80	59.40	65.50	36.80	47.70	53.50	比較	+0.91	+0.47	-1.75	-1.23	-0.45	-0.37	+0.85	-3.19	+1.59	年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	H27	35.00	41.75	49.04	56.64	61.13	65.16	49.80	52.84	55.26	H26	32.80	43.50	50.40	55.00	60.20	66.10	48.50	53.80	57.70	比較	+2.20	-1.75	-1.36	+1.64	+0.93	-0.94	+1.30	-0.96	-2.44
年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3																																																																								
H27	33.01	41.17	45.35	52.57	58.95	65.13	37.65	44.51	55.09																																																																								
H26	32.10	40.70	47.10	53.80	59.40	65.50	36.80	47.70	53.50																																																																								
比較	+0.91	+0.47	-1.75	-1.23	-0.45	-0.37	+0.85	-3.19	+1.59																																																																								
年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3																																																																								
H27	35.00	41.75	49.04	56.64	61.13	65.16	49.80	52.84	55.26																																																																								
H26	32.80	43.50	50.40	55.00	60.20	66.10	48.50	53.80	57.70																																																																								
比較	+2.20	-1.75	-1.36	+1.64	+0.93	-0.94	+1.30	-0.96	-2.44																																																																								
<p>課題及び今後の取組の方向性</p>	<p><input type="checkbox"/>拡充    <input checked="" type="checkbox"/>継続    <input type="checkbox"/>廃止検討    <input type="checkbox"/>その他 ( )</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <p>(1) 子どもの体力向上の推進 幼児期における運動遊びの習慣化の充実を図るため、関係団体と連携しながら情報収集に努める。</p> <p>(2) 小中学校の体育等に関する活動の充実 児童生徒に運動習慣や健康的な生活習慣を身に付けさせるための具体的な施策を検討する。</p> <p>(3) 子どもを取り巻く社会のスポーツ環境の充実 スポーツ少年団等の連携強化による体力レベルの底上げを図るため、関係団体との情報交換の場の設定を検討する。</p>																																																																																
<p>学識経験者の意見</p>	<p>○学年毎の合計点の比較が行われているが、子ども集団による差の影響が大きい。県平均との比較もあるとわかりやすい。また、ある年齢の子ども集団の経年変化(小1→小6までなどの間にどれだけアップしたか)も検証してほしい。</p> <p>○少年団や部活における指導の適正化(厳しすぎる指導ややりすぎ、けが等の防止)にも積極的に取り組んでいただきたい。</p> <p>□新体力テストの結果からは、小学校低学年で県平均を下回る種目が多く、今後、低学年での体力づくりに取り組んでいくことが求められる。</p> <p>□学校の小規模化に伴い運動部活動では、種目によってはチームを組めなかったり、入部を希望する種目がなかったりする学校が多くなってきている現状に鑑み、学校とスポーツ少年団等との連絡・調整の必要性がこれまで以上に求められよう。</p>																																																																																

基本目標	5 スポーツで輝く夢のあるまちづくりの推進
施策項目	② ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
方針・目標	市民が、体力や年齢等に応じて、安全にスポーツに親しむことができるように、スポーツへの参加を促進する機会や環境の整備を推進します。
事業・取組名	(1) 青・壮年期におけるスポーツ参加機会の拡充 (2) 高齢者がはつらつと運動・スポーツに参加できる環境の整備 (3) 障がい者が生き生きと運動・スポーツに参加できる環境の整備 (4) 健康づくり運動の推進 (5) スポーツを支える組織の充実・連携やボランティアの育成 (6) スポーツにおける安全の確保
目標値	成人の週1回以上のスポーツ実施率が3人に2人(65%程度)となることを目指します。
前年度項目	4 生涯スポーツ(市民体育) (1) スポーツを楽しめる環境を整える
前年度の意見と対応	①各種スポーツ教室や大会の開催と競技団体への支援 ⇒教室や大会の開催、競技団体への支援を進めていきます。 ②関係団体等との連携 ⇒関係団体等との連携、協働を図ります。 ③チャレンジデーの認知度向上のための周知 ⇒チャレンジデーの認知度を高めるとともに、参加を契機として健康に対する意識が高まるよう周知に努めます。
事業の実績	(1) 青・壮年期におけるスポーツ参加機会の拡充 ①関係団体と連携し子育て世代等の運動機会の確保に取り組んだ。 ・市体育協会 幼児向け運動能力アップ教室【再掲】 親子チャレンジ(スポーツ)教室 ②県が実施するスポーツ実態調査により地域ニーズを把握し、市の事業展開に活用している。 ③チャレンジデーの際に各地域でできるスポーツ・運動を模索し提案するなどして取り組んだ。 (2) 高齢者がはつらつと運動・スポーツに参加できる環境の整備 関係団体と連携し福祉と連動した健康づくり事業を展開している。 ・市体育協会 シルバースポーツの日(能代会場、二ツ井会場) ・総合型クラブ 各種講座、交流大会の開催 (3) 障がい者が生き生きと運動・スポーツに参加できる環境の整備 ①施設指定管理者において障がい者用設備の維持管理に努めている。 ②市障がい者スポーツ・レクリエーション大会に協力している。 (4) 健康づくり運動の推進 チャレンジデー等のイベントを活用した運動機会の創出に努めている。 今年3回目の参加で、参加率が33.8%から43.1%にアップし初勝利した。 (5) スポーツを支える組織の充実・連携やボランティアの育成 ①総合型クラブの普及・発展への支援を行っている。 市体育協会が新たな総合型地域スポーツクラブの設立に向けた検討委員会を設置し、平成28年度の設立を目指した。 ②市スポーツ推進委員の資質の向上と連携強化を図っている。 ・スポーツ推進委員の研修会への派遣(郡市、全県、東北地区、全国)



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種事業等への委員派遣。</li> </ul> <p>(6) スポーツにおける安全の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①スポーツ施設等の安全対策の充実を図っている。 管理者の市体育協会と連携し各種点検、安全指導に努めた。</li> <li>②関係団体と連携しスポーツ医・科学の普及を図った。 ・市体育協会主催で「スポーツ医・科学研修講座」を実施した。 ・市スポーツ少年団においてSAQトレーニングの実技講習会を年2回開催した。【再掲】</li> </ul>
点検・評価	<p><input type="checkbox"/>目標を上回る      <input type="checkbox"/>ほぼ目標どおり      <input checked="" type="checkbox"/>目標をやや下回る <input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <p>[説明]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成人の週1回以上のスポーツ実施率（市民意識調査） 平成26年度49.5%、平成27年度48.0%（▲1.5ポイントの減）</li> <li>・チャレンジデーは、参加率43.1%で初勝利という結果となった。</li> <li>・総合型地域スポーツクラブは市体育協会が独自に新規立ち上げの支援を行い、新年度からスタートする。拠点施設（能代市総合体育館）がありスタッフも充実していることから安定した運営が期待できる。</li> </ul>
課題及び今後の取組の方向性	<p><input type="checkbox"/>拡充      <input checked="" type="checkbox"/>継続      <input type="checkbox"/>廃止検討      <input type="checkbox"/>その他（ ）</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <p>(1) 青・壮年期におけるスポーツ参加機会の拡充 継続事業は各種教室や研修会等それぞれの団体において実施できているが、成人の週1回以上のスポーツ実施率が下がったことから、更にニーズに対応したプログラムの提供や情報提供の工夫、利用しやすいスポーツ施設の運営等、各団体との連携を図っていく。</p> <p>(2) 高齢者がはつらつと運動・スポーツに参加できる環境の整備 健康づくりのための運動・スポーツ事業の展開、運動習慣定着化のための取組は各団体で事業を実施しているが、開催期日や内容など工夫が必要な部分も見られた。またPRは特に高齢者には媒体、方法などを検討する。</p> <p>(4) 健康づくり運動の推進 チャレンジデーは、スポーツや健康づくり、地域の絆づくりに効果的であることから、各団体や地域と連携を深め、参加率の向上とスポーツの習慣化に結びつけていくための検討を行う。</p> <p>(5) スポーツを支える組織の充実・連携やボランティアの育成 スポーツ環境を支えるボランティアスタッフの育成が急務であり、既存の能代カップやきみまち二ツ井マラソンのボランティア及び各競技団体等、後継者の育成や資質の向上を目指した取組を検討する。</p>
学識経験者の意見	<p>○高齢化が進む中では、週1回以上のスポーツ実施率を向上させることはかなり難しいように思われるが、チャレンジデーのような成果もあがっているので、各団体の取組を全体的に調整し、交流するなど、底上げを図るなどの努力をお願いしたい。</p> <p><input type="checkbox"/>青・壮年者や高齢者、障がい者が、スポーツを通して健康で明るく生き生きとした生活を送れるよう、各種のスポーツ教室や大会を開催している。</p> <p><input type="checkbox"/>チャレンジデーでは、初めて勝利することができた。これまで以上に、市民への周知に努めた結果と思う。これを機に、運動の習慣化に結びつけるための取組を提案したいものである。</p>

	<p>□市スポーツ推進委員の資質の向上や各種スポーツ大会を支えるボランティアスタッフの育成が求められる。各競技団体等と連携し、計画的・継続的に取り組んでほしい。</p>
--	--

基本目標	5 スポーツで輝く夢のあるまちづくりの推進
施策項目	③ スポーツを活用した地域の活性化
方針・目標	スポーツを通じた交流による、人々の一体感の醸成と活力ある地域社会の実現を目指します。
事業・取組名	(1) スポーツを活用した地域づくり (2) スポーツによる交流人口の拡大 (3) 「バスケの街づくり」を中心としたスポーツによる街づくりの推進
目標値	スポーツを活用した、地域のにぎわい創出と大規模スポーツ大会の情報発信に取り組みます。
前年度項目	4 生涯スポーツ（市民体育） (1) スポーツを楽しめる環境を整える
前年度の意見と対応	①スポーツ推進計画の着実な実行への取組 ⇒計画に基づき、関係団体や市民と連携して具体的な施策の展開を図ります。 ②各種スポーツ教室や大会の開催と競技団体への支援 ⇒教室や大会の開催、競技団体への支援を進めます。 ③関係団体等との連携 ⇒関係団体等との連携、協働を図ります。
事務事業の実績	(1) スポーツを活用した地域づくり ①子どもたちの夢と希望を育むスポーツ機会を創出した。 JAF主催の「夢の教室」開催。トップアスリートが実技や講義を行った。 ②関係団体と連携し、スポーツ合宿等を行った。 市体育協会でバスケットのサマーリーグを招致した。(補助金) 合宿参加チーム 8チーム 219名(H26 5チーム 98名) (2) スポーツによる交流人口の拡大 ①関係団体、民間企業等と連携し、スポーツによる交流の推進を図った。 ・きみまち二ツ井マラソン 1,937人参加 (H26 1,870人) ・マラソンとあわせ地元企業等による物産フェア(きみまちの里フェスティバル)を開催した。観客数 11,798人(H26 11,891人) ・マラソンボランティアの育成が図られた。397人(H26 353人) ・全県大会以上の開催 ア 全国大会 6回 イ 東北大会 6回 ウ 全県大会64回 ②新たなスポーツの魅力の発掘及び開発支援 市体育協会で新しいスポーツとして「バブルサッカー」の取組を始めた。 ③大規模なスポーツ大会・イベントと連動した観光誘客 能代カップの際、バスケミュージアムで特別展やトークショー、チアダンス教室など開催。また、商店街の協力も得てバスケロードフェスティバルなどを開催し、誘客に努めた。 (3) 「バスケの街づくり」を中心としたスポーツによる街づくりの推進 ①本物のバスケに触れられる街づくり ②バスケで誰でも集える環境づくり ③バスケによる地域経済の活性化 ④バスケがどこでも感じられる街づくり バスケのまちづくり事業での展開だが、教育委員会では能代カップ(補助

	<p>金)、市教育長杯ミニバスケットボールを市体育協会に委託し、事業を継続した。</p> <p>能代カップ入場者数：6,130人（H26 4,797人）</p>
点検・評価	<p><input type="checkbox"/>目標を上回る      <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ目標どおり      <input type="checkbox"/>目標をやや下回る</p> <p><input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <p>[説明]</p> <p>①トップアスリートや指導者に触れることにより、スポーツの素晴らしさや夢に向かって努力する大切さを学ぶことができた。</p> <p>②マラソンと物産フェアの合同開催により、スポーツを通じた交流人口の拡大が図られた。</p> <p>③各担当課、関係団体がこれまでどおり事業を継続し、概ね現状維持はできた。</p>
課題及び今後の取組の方向性	<p><input type="checkbox"/>拡充      <input checked="" type="checkbox"/>継続      <input type="checkbox"/>廃止検討      <input type="checkbox"/>その他（    ）</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <p>(2) スポーツによる交流人口の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツイベントは競技団体が主体となることが多いことから情報収集し、円滑な運営をしていくようノウハウの蓄積に努める。</li> <li>・市民への情報発信の方法（広報、市ホームページ、SNS等）も検討の余地があり、関係団体と連携し、媒体の選択も含め、効率的な伝え方を工夫していく。</li> </ul>
学識経験者の意見	<p><input type="checkbox"/>スポーツイベントと物産フェアなどの種々の取組と連動させることは地域おこしにもつながることであり、積極的に今後も展開していただきたい。スポーツ、とりわけバスケットによる地域経済の活性化の実現に向けて努力を期待する。</p> <p><input type="checkbox"/>JAF主催の「夢の教室」の開催や、スポーツ合宿の招致等を通して、地域づくりに取り組んだ。合宿に参加したチーム数及び人数が前年度よりも大幅に増えた。</p> <p><input type="checkbox"/>マラソンと地元企業等による物産フェアを合同で開催することによって、前年度以上に交流人口の拡大が図れた。</p>

基本目標	5 スポーツで輝く夢のあるまちづくりの推進
施策項目	④ 市民が主体的に参画できるスポーツ環境の整備
方針・目標	指導者や施設の充実等、市民が主体的に参画するスポーツ環境を整備します。
事業・取組名	(1) 地域のスポーツ指導者等の充実 (2) スポーツ施設の充実 (3) スポーツに関する表彰制度の整備 (4) 地域スポーツと関係団体との連携
目標値	スポーツ施設の指定管理者と連携し、安全で利便性の高い施設の充実を図ります。
前年度項目	4 生涯スポーツ（市民体育） (1) スポーツを楽しめる環境を整える
前年度の意見と対応	①スポーツ推進計画の着実な実行への取組 ⇒計画に基づき、関係団体や市民と連携して具体的な施策の展開を図ります。 ②市民主導型取組への発展 ⇒市民が主体的に参画できるスポーツ環境整備に取り組みます。 ③関係団体等との連携 ⇒関係団体等との連携、協働を図ります。
事務事業の実績	(1) 地域のスポーツ指導者等の充実 ①関係団体と連携した地域のスポーツ指導者の育成と活用 ・市体育協会、市スポーツ少年団等研修会の開催や派遣を行った。 ・研修会参加等の支援を行った。 ②スポーツリーダーバンク等の整備・充実の支援 市スポーツ少年団の講師派遣型スポーツセミナーを実施した。 ③体罰やハラスメントのない育成環境の整備 学校や競技団体、スポーツ少年団等と連携して取り組んだ。 (2) スポーツ施設の充実 ①スポーツ施設の整備・改修 ・能代球場大規模改修工事を実施した。 ・二ツ井テニスコート移転整備を実施した。 ・能代市総合体育館改修工事基本設計を実施した。 ②学校体育施設等の活用 登録スポーツクラブ制度により、学校体育館開放を継続して行った。 ③利用者ニーズに対応した施設の管理運営と利用促進 ・指定管理者の市体育協会がマニュアルに基づき運営を継続したほか、アンケート結果を反映して改善に努めた。 ・休館日の廃止（二ツ井町総合体育館・B&G海洋センター）や閉館時間の変更を実施した。 ④自然環境や屋外施設を活用したスポーツと健康づくりの推進 ・主催 市民歩け歩け大会（風の松原） ・市体育協会 マリンスポーツ事業（米代川河口付近） (3) スポーツに関する表彰制度の整備 児童・生徒の表彰（能代市栄光賞、市体育協会スポーツ賞）を継続して行った。

	<p>(4) 地域スポーツと関係団体との連携</p> <p>①自治会等地域組織との連携・協働 チャレンジデー周知の際、各種会合等でのPRや回覧板での周知依頼を継続した。</p> <p>②医療機関等との連携 のしろ健康21推進委員会や、のしろチャレンジデー実行委員会等に相互に役員枠を設け連携を継続した。</p>
点検・評価	<p><input type="checkbox"/>目標を上回る      <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ目標どおり      <input type="checkbox"/>目標をやや下回る</p> <p><input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <p>[説明]</p> <p>①施設の大規模改修等により、利用者が、良好なコンディションで競技できる環境整備を推進した。</p> <p>②体育施設の管理運営に関し、アンケート結果を反映して改善に努めたことにより、利用者ニーズの対応が図られた。</p> <p>③休館日の廃止や閉館時間の変更を実施し、利用しやすい環境整備に努めたことにより、利用者の増加につながった。</p>
課題及び今後の取組の方向性	<p><input type="checkbox"/>拡充      <input checked="" type="checkbox"/>継続      <input type="checkbox"/>廃止検討      <input type="checkbox"/>その他 ( )</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <p>(1) 地域のスポーツ指導者等の充実 スポーツ環境を整備する上で指導者の養成・確保は重要な点であり、そのための研修会受講や資格取得に関わる予算確保や人材の発掘は必須で、各団と連携し取り組む必要がある。さらに、養成した指導者を効果的に活用するよう市体育協会のスポーツリーダーバンク等による適正な指導者の派遣が求められる。</p> <p>(2) スポーツ施設の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な施設の維持管理を行う</li> <li>・経年劣化している施設の整備について、計画的な修繕及び改修を行う。</li> </ul> <p>(3) スポーツに関する表彰制度の整備 世界で活躍する選手に対する表彰制度の検討を行う。</p> <p>(4) 地域スポーツと関係団体との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツへの参加は、各地域や事業所において行われることが習慣化につながることから、各自治会や事業所で自主的にできる運動・スポーツを再発見するため、連携して取り組んでいく。</li> <li>・各種団体と連携が図れるよう、更なる情報交換の機会を設ける。</li> </ul>
学識経験者の意見	<p>○スポーツ指導者の養成・確保に際して、研修会等の実施により、科学的・合理的な指導力の向上に取り組むとともに、体罰・ハラスメント等が生じないような人権意識、コンプライアンス意識の啓発に努め、適宜調査を行うことや、相談窓口の整備に努めていただきたい。</p> <p><input type="checkbox"/>能代球場の大規模改修や二ツ井テニスコートの移転など、市民が気持ちよく競技できる環境が整備された。</p> <p><input type="checkbox"/>児童・生徒の表彰（能代市栄光賞、市体育協会スポーツ賞）は、受賞者にとって名誉なことであり、今後の競技生活への自信につながっている。ぜひ、継続して行ってほしい。</p>

### Ⅲ 教育委員会の運営状況

#### (1) 教育委員会の開催状況

① 開催状況 定例会 12回 臨時会 4回

#### ② 審議された案件等

年月日	区分	番号	件名
H27. 4. 23	定例会	議案 第37号	教育長職務代理者の指定について
		議案 第38号	能代市立小、中学校学校評議員の委嘱について
		議案 第39号	能代市学校運営協議会委員の任命について
		議案 第40号	能代市中心身障害児就学指導委員会委員の任命について
		議案 第41号	能代市公民館活動協力員の委嘱について
		報告 第9号	能代市奨学選考委員会委員の委嘱について
H27. 5. 25	定例会	議案 第42号	能代市社会教育委員の委嘱について
		議案 第43号	能代市公民館運営審議会委員の委嘱について
		議案 第44号	能代市子ども館運営協議会委員の委嘱について
		議案 第45号	能代市文化会館運営協議会委員の委嘱について
		協議 第4号	能代市屋外運動施設条例の一部改正について
		協議 第5号	平成27年度能代市一般会計補正予算について
H27. 6. 26	定例会	議案 第46号	史跡檜山安東氏城館跡環境整備計画策定委員会設置要綱の制定について
		議案 第47号	能代市立図書館協議会委員の任命について
		議案 第48号	能代市文化財保護審議会委員の任命について
		報告 第10号	能代市青少年問題協議会委員の委嘱について
H27. 7. 15	臨時会	協議 第6号	能代球場改修工事（建築主体工事）の請負契約について
		協議 第7号	能代球場改修工事（電気設備工事）の請負契約について
H27. 7. 23	定例会	議案 第49号	能代市二ツ井公民館分館主事補の委嘱について
		議案 第50号	能代市二ツ井公民館分館運営委員の委嘱について
		報告 第11号	能代市生涯学習推進協議会委員の委嘱について
H27. 7. 29	臨時会	議案 第51号	平成28年度使用能代市立中学校教科用図書の採択について
H27. 8. 24	定例会	議案 第52号	能代市教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について
		協議 第8号	平成27年度能代市一般会計補正予算について
H27. 9. 30	定例会		案件なし
H27. 10. 30	定例会		案件なし
H27. 11. 26	定例会	議案 第53号	能代市文化会館の管理運営に関する規則の一部を改正する規則について
		協議 第9号	能代市文化会館条例の一部改正について
		協議 第10号	能代市農林漁家婦人活動促進施設の指定管理者の指定について
		協議 第11号	平成27年度能代市一般会計補正予算について
H27. 12. 25	定例会	報告 第12号	平成27年度能代市一般会計補正予算について
H28. 1. 28	定例会		案件なし
H28. 2. 22	定例会	協議 第1号	能代市屋外運動施設使用料条例の一部改正について
		協議 第2号	平成27年度能代市一般会計補正予算について
		協議 第3号	平成28年度能代市一般会計予算について
		報告 第1号	能代市小・中学校各種大会出場費補助金交付要綱の一部改正について
H28. 3. 1	臨時会	議案 第1号	平成28年度能代市立小・中学校教職員の人事異動について

H28. 3. 25	臨時会	議案 第2号	平成28年度能代市教育委員会関係職員の人事異動について
H28. 3. 25	定例会	議案 第3号	能代市心身障害児就学指導委員会規則の一部改正について
		議案 第4号	能代球場管理規則の一部改正について
		議案 第5号	能代市教育相談員の委嘱について
		議案 第6号	能代市適応指導教室指導員の委嘱について
		議案 第7号	能代市心の教室相談員の委嘱について
		議案 第8号	能代市社会教育指導員の委嘱について
		議案 第9号	能代市子ども館館長の任命について
		議案 第10号	能代市子ども館指導員の委嘱について
		議案 第11号	能代市二ツ井公民館分館長及び主事補の委嘱について
		議案 第12号	能代市二ツ井公民館分館運営委員の委嘱について
		議案 第13号	平成28年度能代市学校教育指導の重点について
		報告 第2号	平成28年度能代市生涯学習推進方針について
		報告 第3号	平成28年度能代市青少年健全育成活動方針について
報告 第4号	教育委員会委員の任命について		

(2) 教育委員の活動状況

年月日	行 事
H27. 5. 28	平成27年度能代山本市町教育委員会連合会総会
H27. 6. 10	平成27年度東北六縣市町村教育委員会連合会教育委員・教育長研修会
H27. 11. 17	平成27年度全縣市町村教育委員会委員長・教育長会議（第2回）
H27. 10. 13 ～H28. 1. 21	教育長の学校訪問へ教育委員同行 （第四小、朴瀬小、竹生小、二ツ井小、能代二中、能代東中、二ツ井中）